

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

中地区



2025 年 3 月

小山市

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 中地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告	2
5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告	3
1 中地区の概況	
2 地域の自然について	4
3 地域の自然への人の働きかけについて	11
4 地域と人々の心身の結びつき	21
5 景観から読みとれるその他のこと	24
III 簡易社会調査による報告	31
1 目的と実施概要	
2 結果整理の手法について	32
3 各調査の結果報告	33
3-1 グループインタビューの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察）	65
参考・引用文献	80

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることになる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えていくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和6年5月10日から6月30日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

中地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。市民の協力を受け、踏査に同行いただいた経路もあった。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 ― 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 ― アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和6年9月9日(月) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市中公民館うずま館

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 中地区の概況

中地区の位置、面積、人口と沿革

中地区は、明治 22 年（1889）に南小林・上泉・下泉・下河原田・大川島・生駒・下初田・井岡・小袋の 9 村が合併した中村をもととする。地区の面積 8.73km² は市の面積の約 5%、人口 1,977 人は市の人口の約 1.2% を占める。（令和 6 年 4 月 1 日現在。「小山市統計年報 令和 6 年度版」より）。

中地区は、思川低地に立地する。東縁が与良川上流側の水路、西縁が柚井木川と永野川に限られ、巴波川が地区を南北に貫いて流れる。

当地区では、井岡遺跡から縄文時代後期後半と晩期の土器が出土し、晩期の土器には弥生文化の波及以前ながら西日本的な文化の影響が見られる。以降、下泉古墳群が築かれ、奈良・平安時代には今日の小山市域の北側に東山道が通されて思川西部に下野国府が置かれ、その南側に条里制が施され、穀倉地帯が形成された。近世には、本多忠純が榎本藩を立藩した際、小林村の集落を現在の南小林の位置に移し、後に日光山裏道の宿「梅の宮宿」が置かれ、佐野道の生駒宿、巴波川水運の本沢河岸と合わせて人と物の移動を支えた。

巴波川は、東西に大きく弧を描いて流れ、南北にのびる日光山裏道、東西の佐野道と交差する。これらに沿って微高地の上に家々が建ち並び、低平地に広がる水田がこれを囲む。加えて、約 8km 西側に晃石山や太平山が望める景観の基本形が、今日まで保たれている。

水陸交通の要衝

巴波川は、近世初頭から年貢米や領主荷物の輸送路とされ、17 世紀半ばを過ぎると全国的に商業

活動が盛んになるのに伴い栃木町が発展し、通船量が増えた。また、梅の宮宿は、日光街道の野木宿から下生井、新波を経て栃木へ抜ける日光山裏街道と水戸、小山方面から佐野、足利、上州方面に抜ける脇往還「佐野道」の交差点に位置した。このように、近世から近代初頭にかけての中地区は、水陸交通の要衝としての位置を占め、近辺の小市場としての役割を果たし、酒造屋 2 軒、醤油屋 1 軒、宿屋 3 軒をはじめとして、農業の他にもさまざまな商業・営業・職人がみられた。

蛍にまつわる歴史

近世の当地区では蛍が多く発生し、古河藩に「蛍御用」を課されていた。村々で、蛍の成虫を採取して藩役所へ輸送するもので、武蔵一宮氷川神社（現さいたま市）では江戸時代に徳川家、明治時代に宮中へ蛍を献上していた。古河藩でも、将軍に献上するのに江戸へ送ったことがあった。蛍は観賞用の他、薬用に供された。蛍の採取と輸送は、蛍の生態の観察に基づいて方法を工夫しながら行われていた。地域の古文書をもとにこれらのことを明らかにした研究（後述）によれば、蛍の種類はゲンジボタルであったと考えられるという。

『小山市史民俗編』には、昭和の初年以降、上泉が蛍で知られるようになり、昭和 2 年（1927）に本沢橋をコンクリート橋に架け替えた際、「蛍橋」の名に改めたとある。昭和中期になると環境が大きく変わり、蛍は見られなくなった。平成 13 年（2001）年からは、中小学校で稲作活動、水辺ビオトープ活動が始まり、地域住民らでつくる「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」が協力して、巴波川の蛍の生息環境の保全活動が行われる。内容は、子供たちによる蛍の生態や生息環境に関した調べ学習や蛍の飼育、河川清掃などである。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

園田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

出典 | 園田稔編『神道』（弘文堂、1988年、総372頁）。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』（那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁）

なお、踏査は以下の日程で実施した。

05月10日(金) なつみずたんぼ実施地

06月10日(月) 南西部（下泉）

24日(月) 南西部

25日(火) 南東部

26日(水) 北部

なお、本地区は思川低地に位置し、ほぼ全域が洪水浸水想定区域に当たる。簡易社会調査では、水害や農業の継承への不安を示す回答が上位を占めた。このことについて、はじめに整理する。

報告のはじめに

思川低地は、川が氾濫を繰り返してできました。
その中で、縄文時代後期以来、人が自然と
折り合って生きてきた歴史が当地にはあります。

しかし、中地区が位置する巴波川流域では、
上流部で市街化が進み、植林の管理が不足し、
雨水が流出しやすくなり、気温上昇から
雨量は増え、災害の危険度が増しています。

図2 巴波川流域における環境の変化について

土地利用の変化、国内の林業を取り巻く状況、気候変動等の影響から、災害の危険度は増している。



治水地形分類図。出典: 国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-29 参照)

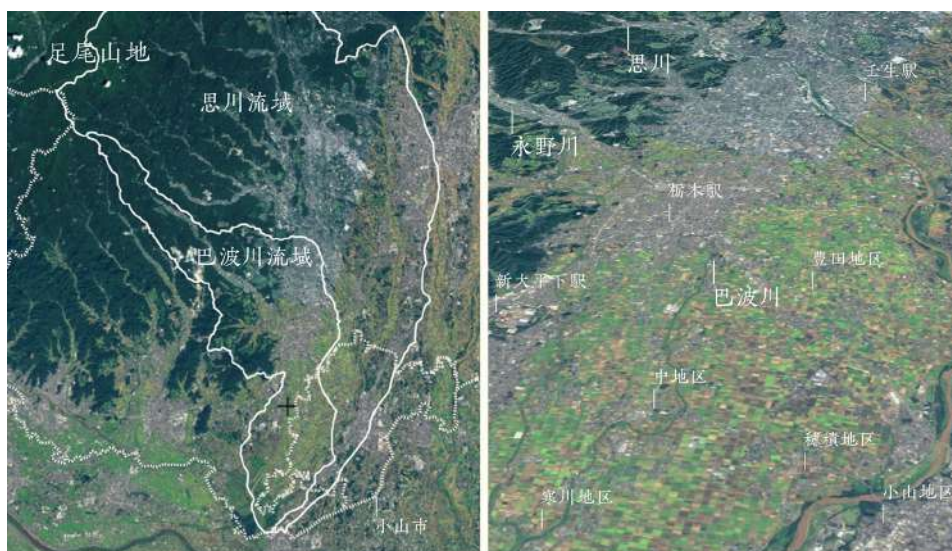
「『上泉』『本沢』(中略)『下泉』『井岡』『河原田』
『大川島』『下初田』など、多くの水にまつわる
地名が残る」。上図の地形要素も水に関係します。

旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産に係る報告書」2017年、3頁

図3 中地区における明治期の低湿地と水にまつわる地名

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)。旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産に係る報告書」2017年、3頁

II 踏査および文献調査による報告



思川・巴波川流域と地形、小山市および中地区の位置の関係 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

思川は「流域の半分が山地で、山地から急に平地に」
巴波川も地形は同様。共に上流域で市街化が進行。

出典: 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編(自然・原始・古代・中世)』小山市、1984年、14-19頁。巴波川流域面積は約218 km²で約22%が山地、約19%が山地、約10%が平地。
橋本雄『一級河川利根川水系巴波川流域河川整備計画(第3期変更)』2021年、1、3頁 <https://www.pref.tokushima.jp/h06/ken/ken/fu/saiha/documents/20210408111748.pdf> (2024-09-03 参照)

図4 巴波川流域と地形、小山市および中地区の位置の関係

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



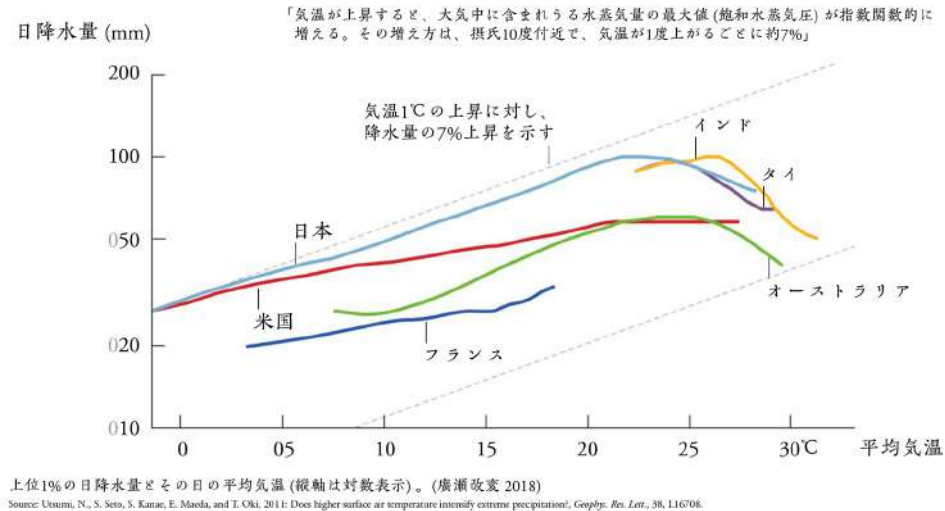
思川・巴波川流域の植生 出典: 生物多様性センター | 自然環境調査Web-GIS | 植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/> (廣瀬改変 2024)

両川源流域の山林では、広範囲で針葉樹の植林を。
写真のように管理不足であると、治山治水に難が。

図5 思川・巴波川流域の植生

出典 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS | 植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/> (廣瀬改変 2024)

II 踏査および文献調査による報告



「海に囲まれた日本やオーストラリアでは、気温の高い日ほどほぼこの7%の傾きに沿って強い豪雨が」

宇都宮地方気象台における年平均気温の長期変化傾向は+2.3(C/100年)。猛暑日の年間日数は10年当たり1.0日増加
 出典: 宇都宮地方気象台・東京管区気象台「熊本県の気候変動 2021」

出典: 沖 大幹『水の未来-グローバル視点と日本』岩波書店、2016年、155-157頁

図6 上位1%の日降水量とその日の平均気温(縦軸は対数表示)。(廣瀬改変 2018)

気温の上昇に伴い、降水量は上昇する。このことに関する説明を、専門書ほかから引用して示す。



図7 市街地の非農家への田園部の農業の貢献について整理する。

報告のはじめに

当地区の農業者は、水害常襲地で様々な困難を抱えながら農業を続けることにより、市街地の非農家に大きな恵みをもたらしてきています。

参照: 鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田とEco-DRR」『農村計画学会誌』37(4)、2019年、358-361頁

こうした農業者の自然の恵みの仲介に対する適正な対価が求められます。

参照: 吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティブ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998年、5-21頁

図8 中地区での農業継続・継承の困難さを確認し、その公益的価値を評価する。

河川低地は稲作等に向くが、水害に遭う危険も付随する。危険の除去・低減と共に、補償が求められる。

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

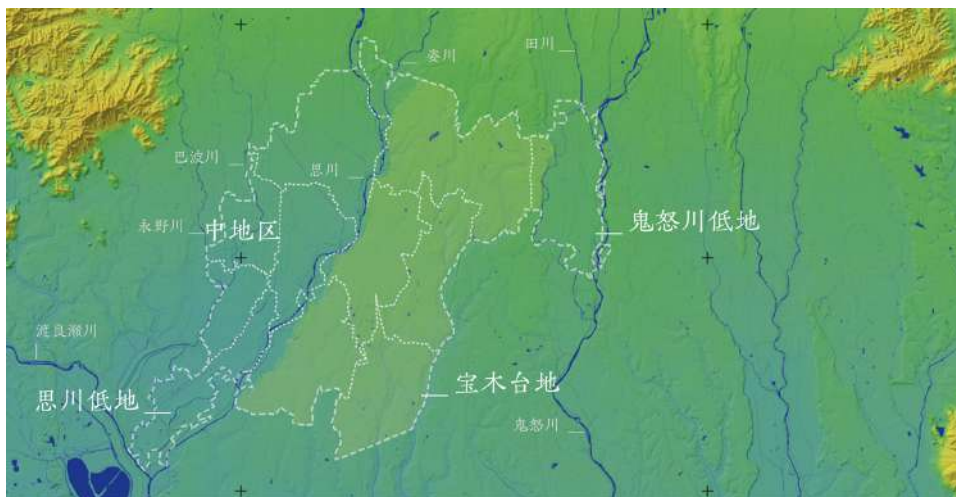
中地区は、小山市西部に位置し、

図9 小山市の地区区分と中地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその西部に位置する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

思川低地上に立地し、東縁がほぼ与良川上流側の水路に、西縁が杣井木川と永野川に限られます。また、巴波川が地区を南北に貫いて流れています。

出典:小山市史編さん委員会編『小山町史 通史編1 自然・原始・古代・中世』小山市,1984年,10頁。

図 10 小山市と中地区の地形。地区の中央を巴波川が南北に貫く。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改变 2024)



図 11 中地区の各集落の位置。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改变 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、332頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



現代の地図に明治期の低湿地の分布を重ねます
(薄黄色は水田を表します)。元は湿地で、**湿田**から**乾田**へ

図 12 巴波川が流れを変えながら作った低湿地に水田、微高地に家屋や畑地がつくられた。

宝木台地は、約7万4千年前から約2万4千年前にかけて川が運んだ土砂がたまり、最も寒冷であった約2万年前までに海水を構成していた水分のうち大陸の上に氷河などとして残った分があったことから海面が下がり、勾配が急になって水が流れる力が強まった川に削り残されてできた。宝木台地の東西の川に削られた面は、その後も土砂が運ばれてたまり、川に削られる変化を繰り返しながら現在はそれぞれ鬼怒川低地、思川低地をかたちづくる。

思川低地の形成については、川の働きと地形の関係がよくわかる、小山市史の以下の文章を引用する。

思川低地は（中略）思川の西岸に広く分布している。この低地は、（中略）上都賀郡西方村金崎付近から思川西岸にそって、栃木市市街地・渡良瀬遊水地につづく低地で、西縁は足尾山地や水代の台地（宝木面＊）と境している。（中略）低地を流下する河川としては思川のほか、巴波川・永野川などがある。

この低地の原形は圃場整備のためほとんど残っていないが、(中略)水田面よりやや高位の微高地が分布している。北部の豊田地区にみられる微高地は、思川水系が低地部を流下した当時の中州状の部分にあたり、南部の寒川・生良・生井などの集落のある微高地は巴波川・思川の自然堤防の部分に相当する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、10 頁

※「宝木面」は地形面の名称で、宝木台地面すなわち宝木台地の上面を指す

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「(縄文時代の)後期後半に位置づけられている
帯縄文系の加曾利B式・安行式土器は
井岡・星宮・宮内・千駄塚浅間・乙女北浦・
宮・寺野遺跡などから発見されている」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、201頁

図 13 中地区の井岡では、縄文時代後期（約 4000~3000 年前）後半の土器が発掘された。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、201 頁

地域の自然への人の働きかけについて

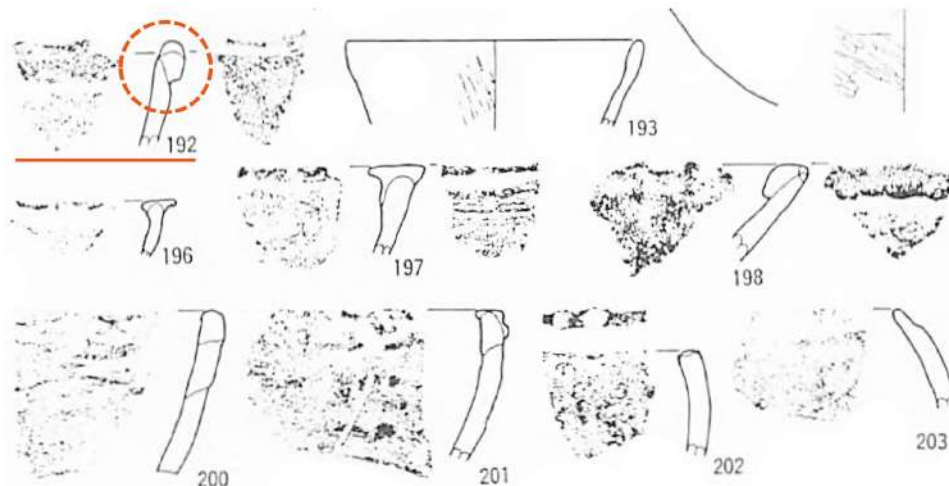
「晩期の土器は、関東的要素の安行系と
東北的要素の大洞系の他に、
地元で作られた在地的なものが入り乱れ、
複雑多様な土器様相を呈する。
しかし、晩期の土器が発見される遺跡は、
井岡・乙女北浦・寺野遺跡にすぎない」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、203頁

図 14 井岡遺跡ではまた、縄文時代晩期（約 3000~2300 年前）の土器も発見されている。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、203 頁

II 踏査および文献調査による報告



出典: 小山市教育委員会「井岡遺跡確認調査」報告書、1980年、28頁

井岡遺跡出土品192 (鉢形土器) は、「口縁部に、西日本後・晩期土器に特徴的な突起を有する」(図中赤線) 弥生文化の波及前に、西日本的な文化の影響が。

図 15 井岡遺跡から出土した土器には、西日本的な文化の影響が窺えるものもある。

当時の人々の移動や文化の伝播、特に縄文-弥生の移行期について知る上で貴重な史料が中地区に存在する。

出典 | 小山市教育委員会「井岡遺跡確認調査」報告書、1980 年、28 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「この低地には
古墳時代前期の山王寺大枡塚古墳、
中期から後期前半にかけての寒川古墳群、
古代における下野国府などが存在する」

出典: 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』
とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、19頁

図 16 古墳の築造には、経済的背景として農業生産力が伴っていたと考えられます。

出典 | 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023 年、19 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「後期の栃木低地周辺の古墳を見ると、
首長墓の築造はほぼ見られなくなる。
それと置き換わるように、
周縁台地上において
多数の古墳が築造される」。

出典: 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』
とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、22頁

図 17 寒川古墳群以降、「栃木低地（思川低地）」では首長墓がほぼ築造されなくなる。

出典 | 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』とちぎ未来
づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、22頁



下泉古墳群の一つ、薬一神社古墳(やくいちじんじゃこふん)と薬一神社。下泉。2024/06/08

「この中で注意されるのが、低地西側の
永野川流域において前方後円墳を中心とした
群集墳の展開（中略）。下泉古墳群は低地面に立地し、
確認されている古墳は8基である」。

出典: 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、22頁

図 18 下泉古墳群は円墳から成り、前方後円墳である伯仲1号墳と関係すると考えられる。

出典 | 秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」『研究紀要 第31号』
とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、22頁

地域の自然への人の働きかけについて

「関東地方の条里制は、主として北関東に
大規模なものが施されたことが判明した」

「関東第二の規模をもつ例が下野国にみられる。
下野国府があった現栃木市田村町から南にのび、
現小山市の思川西部のほぼ全域にわたって
条里制が施されている」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、355頁

図 19 条里制は、国の農地を民に耕作させて収穫に租税を課した班田収授法に基づく土地の区画制度。

条（東西の列）里（南北の列）区画の基本単位は「坪」で、1 辺が1 町（約 109m）の正方形であった。
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、355 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「巴波川流域は、思川西岸から、西の永野川
東岸に広がる広大な沖積平野のほぼ中央に
位置している。北端に近い下初田付近で
標高30、中間の上泉付近が25、下流の中里で
20 mを示し、傾斜角度がゆるやかであるため、
各所で氾濫をくり返し、

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、356頁

図 20 下初田-と下泉の高低差は約 10m、直線距離は 4.2km で、傾斜角度は約 1.35 度。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、356 頁

II 踏査および文献調査による報告



図 21 下河原田・小袋・井岡周辺の空中写真 (1947/11/01)。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、357 頁

参照 | 中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行「中地区のあゆみ」2013 年、5 頁



図 22 南小林・大河原田周辺。空中写真 (2021/05/06) と川入 (写真右上)、大川島 (右下) の地割の比較。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



橋本市大平町榎本-南小林の範囲を撮影した空中写真。1947/11/01。出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp>

文禄検地当時、小林村の集落は今より北西にあり、本多忠純が検地を行った慶長13年(1608)に現在地に。「忠純は同10年(1605)の入封以降、城下町の整備を行うさい、周辺の集落をもあわせて整理した(後略)」

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市, 1986年, 66頁

図 23 栃木市榎本町-南小林。空中写真。1947/11/01。出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年、66 頁



東箭神社の前から見た梅の宮宿。南小林。2024/06/22

梅の宮宿は、「1744(延享元)年(中略)公式に『宿』としての機能を果たすようになった」「巴波川の水運、日光山裏道における宿としての活動や

出典：田・麿の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行『田・麿の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産に係る報告書』2017年、7頁

図 24 東箭神社の前から見た梅の宮宿。南小林。2024/06/22。

出典 | 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的資産に係る報告書」2017年、7頁

地域の
豊かな水田の
生産力により、
時に困窮しつつも
(中略) 豊かな
まちであったと
考えられる。
それを物語るのが

出典: 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産に係る報告書」2017年、7、9頁



明治前期の迅速測量図 (国土地理院所蔵) 現在の都市計画図
図7. 調査対象地域の変遷

図 25 明治前期の迅速測量図 (国土地理院所蔵。図左) 現在の都市計画図 (同右)。

出典 | 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会前掲書。7、9 頁



東箭神社彫刻。南小林。2024/06/26

熊野神社彫刻。上泉。2024/06/24

南小林的東箭神社、上泉の熊野神社である」。
東箭神社の「本殿の価値を高めているのは、
後藤正秀の手による豊富な装飾彫刻である」。
「正秀と同じ磯辺一族のもう1つの作品が残るのが
上泉の熊野神社」「分家3代目である磯辺敬信の」

出典: 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産に係る報告書」2017年、7-8頁

図 26 南小林的東箭神社彫刻 (写真左) と上泉の熊野神社彫刻 (同右)。2024/06/24。

上記2社の他、大川島神社にも富田(栃木市大平町)の磯辺一族の磯辺義兵衛隆顕による彫刻が残る。
出典 | 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会同書、7-8 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

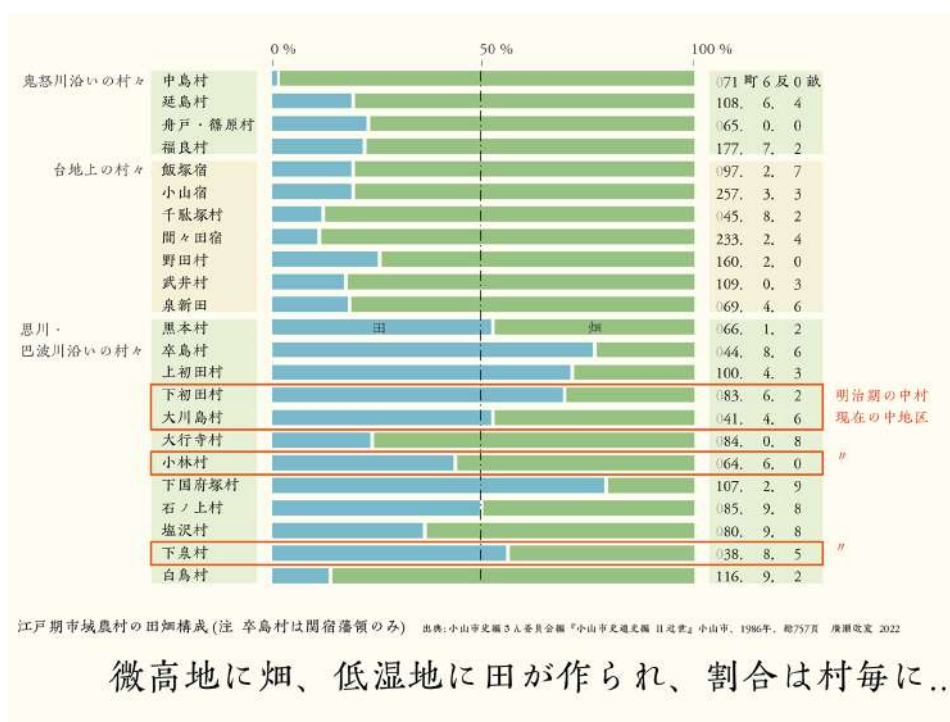
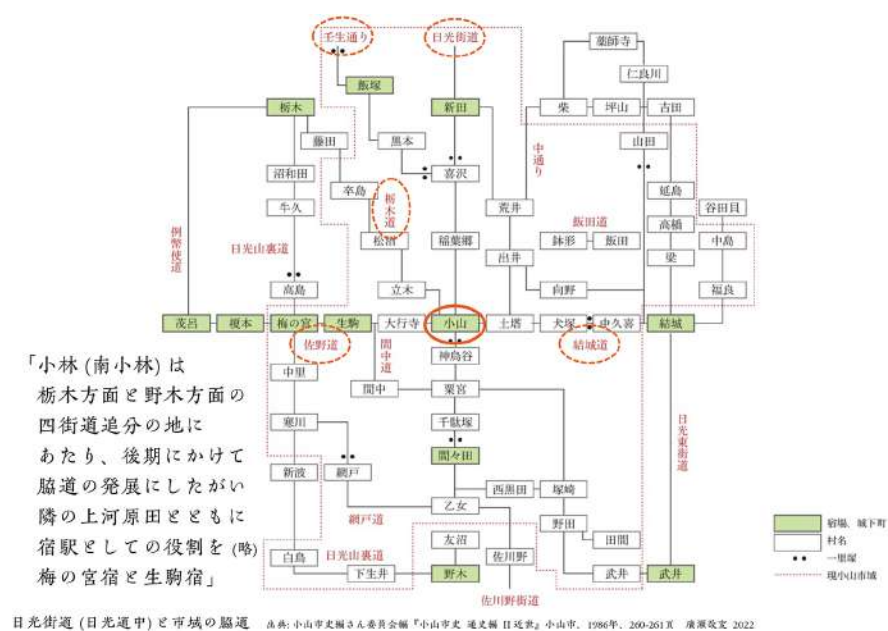


図 27 江戸期市域農村の田畑構成 (注 卒島村は関宿藩領のみ)。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年、総 757 頁 廣瀬改変 2022



五街道追分の地を中心に、中地区では水運とも...

図 28 日光街道（日光道中）と市域の脇道。「五街道追分の地」は、小山宿を指す。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、260-261頁 廣瀬改変 2022

II 踏査および文献調査による報告



梅の宮宿・生駒宿周辺の佐野道。空中写真。1947/11/01

かつての本沢橋(現螢橋)から上流側を見る。上泉。2024/06/24

「近世初頭より年貢米や領主荷物の輸送路として船数もしだいに増え」た巴波川では、「17世紀なかばを過ぎると全国的な商業の発達にともない、栃木町も在郷町として発展し、通船量も増加」。

出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024/06/28 参照)。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、261、497頁

図 29 梅の宮宿・生駒宿周辺の佐野道。空中写真。1947/11/01（左）と生駒橋周辺。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> 廣瀬改変 2024

小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、261、497頁



生駒神社。下初田。2024/06/26

「もともと鳥居は木製が多く」市内最古の石鳥居は承応2年(1653)、須賀神社に。市史には他に二例が載り、うち一例は生駒神社の元禄11年(1698)の鳥居。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、230-231頁。市内2番目は「小山町愛宕神社の寛文7年(1667)の鳥居」

図 30 生駒神社。下初田。2024/06/26。※市史に載るもう一例は「小山町愛宕神社の寛文7年(1667)の鳥居」

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、230-231頁



大川島神社鳥居。小山市指定文化財(有形文化財—建造物)。大川島。2024/06/26

大川島神社の石鳥居は、元禄4年(1691)に建立。
「建立当初の位置を保っていると考えられ、目立った
損傷もなく、近世前期の貴重な鳥居である」。

出典：小山市教育委員会「大川島神社鳥居説明サイン」2000年

図 31 大川島神社鳥居。小山市指定文化財(有形文化財—建造物)。大川島。2024/06/26。

市内の石造鳥居について書かれた『小山市史 通史編Ⅱ 近世』230-231 頁に記載がないが、大川島神社に建てられた説明サインによれば、同神社の石造鳥居は現存する中で市内 3 番目に古いものであるという。以下、サインより解説文の全文を引用する。

小山市指定文化財(有形文化財—建造物) 大川島神社鳥居

大川島神社は、中世には惣大権現と呼ばれ、現在の小山市西部や大平町などを領域とした中泉庄の惣鎮守として、庄内の住民から厚く崇敬されてきた。

元禄四年(一六九一)に当時の大川島村を領していた旗本の朝倉氏・戸田氏が願主となって建立したこの鳥居には、作者である江戸柳原の弥兵衛・善兵衛、栃木町の石屋三左右門、当社別当寺だった光明寺の住僧と思われる法印秀意らの名が、銘文に刻まれている。

鳥居は、神社の参道に建てられて神域や境内の入口を示すもので、元来は木造であるが、平安時代頃からは石造も現れる。

この鳥居は、島木をもつ明神鳥居形式で、中規模ではあるが、現存するものとしては小山市で三番目に古い石造鳥居である。建立当初の位置を保っていると考えられ、目立った損傷もなく、近世前期の貴重な鳥居である。

柱間二、八〇m、中心高三、一八 m

指定年月日 平成十二年十二月二十日

所在地 小山市大字大川島

所有(管理)者 大川島神社

出典 | 小山市教育委員会「大川島神社鳥居説明サイン」2000 年

4 地域と人々の心身の結びつき

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
国府塚学校	明治6年09月02日	下国府塚村 興永寺	60人 ※学区に上河原田村・下河原田村・小袋村・井岡村を含む
協同学舎	明治6年09月16日	上泉村 円満寺	90人
国府塚学校 下河原田分校	明治7年08月01日	下河原田村 保寿寺	42人

小学校設立一覧（中地区）。出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年（1873）に全国で小学校の設立が本格化。
「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を採り（中略）小山市域に設立された小学校のほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。
中地区では、上泉、下河原田および下国府塚※に。

図 32 中地区における明治 6 年（1873）からの小学校設立について表にまとめる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年、73-86 頁



図 33 国府塚学校と同校下河原田分校、協同学舎に貸し出された三つの寺院は、今日も残る。

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年、585-591 頁

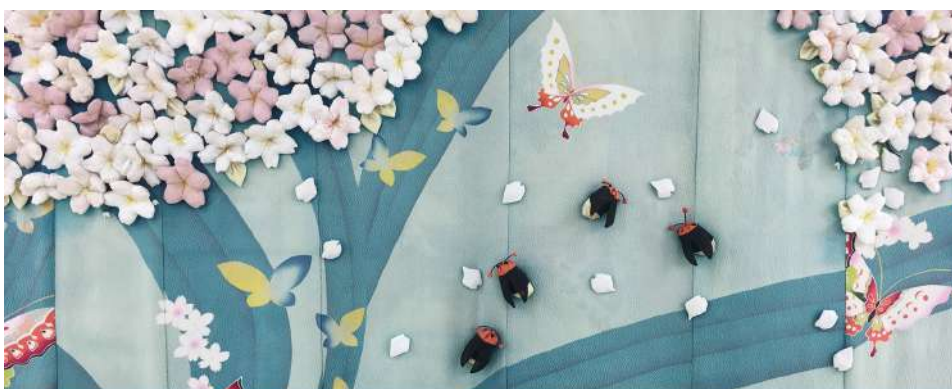


出典：中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行『中地区ってこんなところ!』（2014年）ほか

多様な地誌。『中地区ってこんなところ!』第1章
「もの知り名人のお話を聞く会」は、独自のかと。

図 34 本調査のために借用した地誌。複合的な歴史研究から身近な人々の口述の記録まで。

出典 | 中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行『中地区ってこんなところ!』（2014年）ほか



地域の2つの女性グループが2012年に共同制作し、うずま館に寄贈したつるし飾り「うずまの四季」。下河原田。2024/05/27

「小袋婦人学級」の項より、引用します。
「小袋婦人学級を作り勉強しようと、自治会の
婦人達に相談しました。皆の心が豊かになり
住みよい地域になる事を願って、66軒しかない
地域なのに56人の会員で始まりました」。

出典：小林佳子（小袋）「私と中公民館」『中地区ってこんなところ!』中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行、2014年、13-14頁

図 35 地域の2つの女性グループが2012年に共同制作し、うずま館に寄贈したつるし飾り「うずまの四季」。

出典 | 小林佳子（小袋）「私と中公民館」『中地区ってこんなところ!』中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行、2014年、13-14頁



「祭典面田奉納・生駒青年会解散記念碑（昭和18年4月）」。八幡宮。生駒。2024/06/25。全体（左）と部分拡大（右）

生駒の八幡宮に「祭典面田」奉納の碑が。埼玉県の嵐山町誌に「八幡面は八幡様の費用にあてた田」とあることから同様の目的の田かど。ただし、奉納者生駒青年会の「解散記念」と。1943年のことです。

出典：嵐山町web博物誌 | 嵐山町誌 | 四、村の地名 | 第5節：特殊な地名 | 信仰に関係あるもの | 免・面 http://www.ranluka.com/web06/01chisho/10_145.html (2024-09-07 参照)

図 36 「祭典面田奉納・生駒青年会解散記念碑（昭和 18 年 4 月）」。生駒。2024/06/25。

八幡宮境内に建つ碑の文字「祭典面田」の意味を考える参考とした文章を、以下に引用する。生駒の「面田」が下記の例に通じるものであるとすると、近世の制度に由来する活動を生駒青年会がどのような理由から近代の 1943 年まで継続したかに関心が向くところである。

免又は面のつく地名は次のとおりである。八幡面（後略）。

これは神仏の信仰に関係して起った地名である。江戸時代は石高に対して一定の割合で年貢米を徴収した。この石高に対する年貢率を、今でいえば税率のことを免（めん）といった。然し本来の意味はそうではなく、年貢として徴収した残り、即ち作徳米を、百姓に免じ与えるという意味であった。ここに地名となった「めん」もこの意味である。つまり神仏を祭るために、特定の田畑の収穫物を免除して、祭祀の用にあてることを許した。その田畑を呼んだ名が地名にひろがったのである。免除の割合は様々で、除地と称して、全額を免除したものや、半分、三分の一を減免してその分を神仏に奉るというのもあった。これ等の田畑の耕作は共同で行ったり、番に当たった者が順にやるという方法をとったりした。

さてそこで前記の地名を見ると、八幡面は八幡様の費用にあてた田であることは明らかである。

出典 | 嵐山町 web 博物誌 | 嵐山町誌 | 四、村の地名 | 第 5 節：特殊な地名 | 信仰に関係あるもの | 免・面

5 景観から読みとれるその他のこと



巴波川。下泉。2024/06/24

同左。下河原田。2024/06/25

大きく蛇行する巴波川が、中央を貫く中地区。
川の左右には、氾濫からかたちづくりられた微高地に
構えられた集落が。微高地の間や川から離れた先の
低地には水田がある。約8 km西側には、山々が。

図 37 下泉を流れる巴波川（写真左）と下河原田を流れる巴波川（同右）。2024/06/25

写真は、共に上流から下流を見て撮影した。下河原田の新蛸橋上流側、左岸には、桜並木が植えられる。



栃木県道153号南小林栃木線より平行する日光山裏道と熊野神社、中小学校を見る。上泉。2024/06/26

大きな弧を描く川の河岸から直線状に街道が伸び、
家々が沿い、一部が宿に。地区景観の特色の一端。

図 38 栃木県道 153 号南小林栃木線より平行する日光山裏道と熊野神社、中小学校を見る。上泉。2024/06/26

日光山裏道が通る微高地と中小学校のある微高地の間では、巴波川の旧河道が確認されている。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 39 巴波川・發込川合流点より発戸（ほっと）を望む。下初田。2024/06/26。

思川低地西側の台地とその背後の山々に近づき、巴波川上流側の栃木市との関連を思わせる風景。



イヌツゲの生垣。小袋。2024/06/25

シラカシの高垣。発戸。2024/06/26

建物の軒先を伸ばした下屋や独立した納屋ほか、半屋内での作業に向く建物は、各地方、地域に…。左は、納屋と生垣を合わせ屋内外を結ぶ作業空間に右は、牛舎にシラカシの高垣を沿わせた例で、屋根の軒先を強風から守り、微風は屋内へ導き、

樹木のアンモニア除去能力を利用しているかもしれません。出典：高橋朋子・鈴木睦美・福光健二「樹木による悪臭除去手冊」『群馬畜試研報』1、群馬県畜産試験場、1994年、136-142頁

図 40 イヌツゲの生垣（小袋。写真左）とシラカシの高垣（発戸。同右）2024/06/26。

シラカシの高垣は、防風と樹木のアンモニア除去能力を利用を兼ねている可能性がある。

出典 | 高橋朋子・鈴木睦美・福光健二「樹木による悪臭除去手冊」『群馬畜試研報』1、群馬県畜産試験場、1994年、136-142頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



螢橋、青木家住宅。下河原田-上泉。2024/06/24



螢籠。中公民館。下河原田。2024/04/18

「古河藩では例年三月から四月になると、これら
巴波川流域の村々に螢御用を命じていた」
「村々では、この螢の採集や輸送のため人足を動員し
これに対処しなければならなかった」
生きた螢を観賞用、死んだ螢を薬用としたそうです

出典：平田輝明「古河藩における螢御用と農民」『小山市立博物館紀要』小山市立博物館、1994年、55-93頁

図 41 螢橋、青木家住宅（下河原田-上泉。写真左）と螢籠（中公民館。下河原田。同右）。

出典 | 平田輝明「古河藩における螢御用と農民」『小山市立博物館紀要』小山市立博物館、1994 年、55-93 頁



八坂神社脇の水路のカワニナ（ゲンジボタル幼虫が食餌に）。上泉。同左



螢の飾り物。うずま館（中公民館）。下河原田。2024/07/20

「平成13年より始まった『ほたる飛び交う中地区を
めざす運動』もはや2年が過ぎ（後略）」。
「総合学習の時間にほたる橋の由来を調べた
児童たちが（中略）むかしのようにはたるが飛び交う
中地区にしたいと学校祭で発表しました。
『たんぼのある学校』でこれを実施することに」

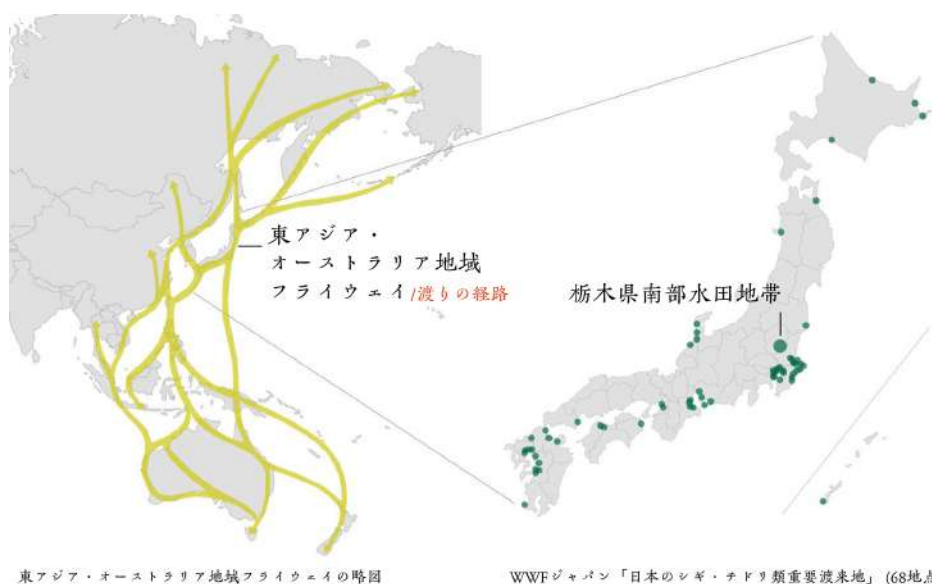
出典：森田弘「ごあいさつ」「うずまのはたる 第1号」2003年、1頁 | 小山市 - 中小学校 https://www.city.uyama.tochigi.jp/data/doc/1703211655_doc_209_0.pdf (2024-08-28 参照)

図 42 八坂神社脇の水路のカワニナ（上泉。写真左）と螢の飾り物（うずま館。同右）。

カワニナは淡水巻貝で、中地区に生息していたと考えられるゲンジボタルの幼虫が食べる。

出典 | 森田弘「ごあいさつ」「うずまのはたる 第1号」2003 年、1 頁 | 小山市 - 中小学校

II 踏査および文献調査による報告



シギ・チドリ類など渡り性の水鳥は、彼らが休息し
餌を採る湿地を結ぶ経路を毎年移動しています。

Source: David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110. / WWF ジャパン <https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html> (2024-08-19 参照)

図 43 東アジア・オーストラリア地域の渡り鳥の移動において、当地区も休息と採餌の場に。

参照 | David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110



小山市では、湿地を通年確保して水鳥の渡りを
支えるため、冬も田に水を張るふゆみずたんぼを
9ヶ所、面積約7.9 haで協議会会員9名が、

出典: 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r> (2024-08-21 参照)

図 44 ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井 (生井地区)。2021/06/23。

出典 | 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r>

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者がそれぞれ実施しています。

出典: 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-08-21 参照)

図 45 なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影。

出典 | 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0>



中地区調査地点。2024/05/10

2015年以降、鹿沼自然観察会の鈴木由清氏が行う調査では、中地区でこれまで春期に見られなかった

図 46 中地区調査地点でキアシシギを確認。2024/05/10。

参照 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 47 キアシシギ。穂積地区。2024/05/10 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影。

キアシシギは、繁殖地ロシア北部と越冬地のオーストラリアなどの間を、春と秋に渡る。
参照 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁

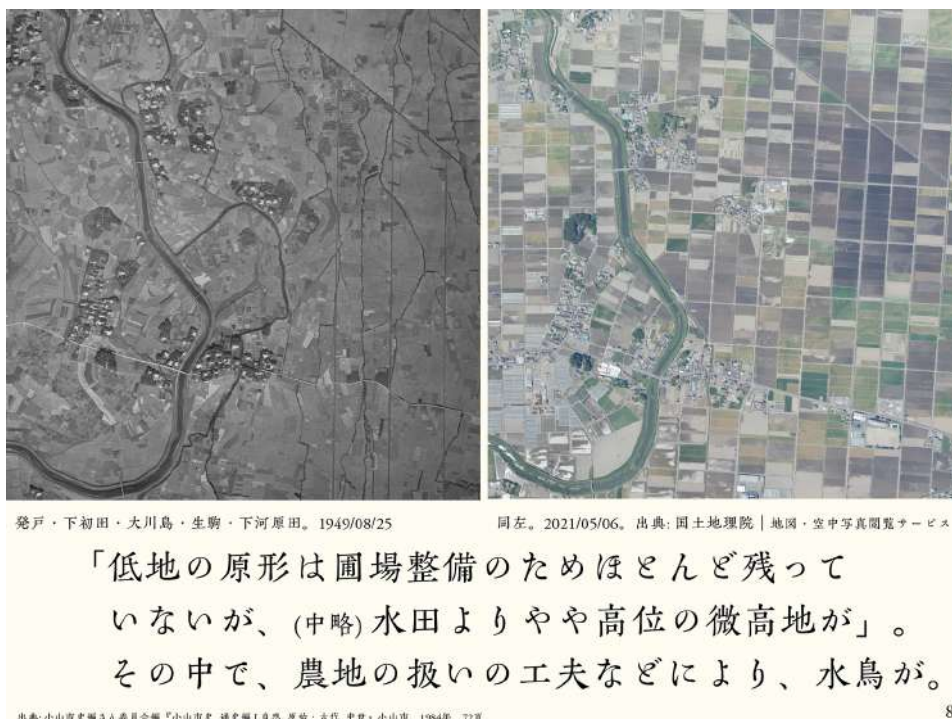


図 48 発戸・下初田・大川島・生駒・下河原田。1949/08/25 (左) 。2021/05/06 (右) 。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、72 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 49 写真は、耕起中の田 (左) とムナグロ (右)。

文中の※印の内容は、鹿沼自然観察会の鈴木由清氏より、2024 年 5 月 10 に現地で説明を受けた。



図 50 小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育する。

参照 | 風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015 年、3-23 頁

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

中地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、中地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、中地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和6年5月から7月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

①座談会形式のグループインタビュー

②自治会加入全世帯を対象としたアンケート

自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・4月18日：自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施
- ・広報おやま4月号の回覧時に：田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの説明と周知

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の4つのグループで実施した。

- ①農業従事者の皆様 1回目：3月13日・6名、2回目：5月20日・4名

新年度4月に入ると田植えの準備などで農繁期に入ることから3月のうちに設定した。また自治会長さんの助言を受けて5月に2回目を実施。

- ②子育て世代の皆様：5月27日

育成会役員の方々など5名の方にご参加いただいた。他1名の方より当日のご都合がつかず書面でコメントをいただいた。

- ③自治会長の皆様：6月10日

全自治会長4名の方にご参加いただいた。

*各回には、地区ビジョン策定チームの市民委員や職員も同席した。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～中地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について

②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事

④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの

⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査

実施方法 1

- ・6月初旬配布：広報配布時に、自治会/各班に仕分けし、班ごとの通い袋に入れて、各世帯に班長さんより配布していただいた。
- ・6月28日を締切とし、自治会のご協力で回収412通(母数673：回収率：61.2%)

実施方法 2

- ・紙の調査票の郵送と並行して、インターネットで回答をいただけるように、各世帯への依頼書に、グーグルフォームの二次元コードを記載した。
- ・締め切りは7月15日とし、3名の回答があった。

回答数

- ・上記合計415名の回答により集計を行った。
- ・集計結果を、「小山市中地区アンケート調査集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の3種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート調査集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用している。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 自治会リーダーの方々

- 1：参加者の方々の地域や農業との関わりや生活圏
- 2：昔と今の地域（農業）の変化
- 3：現状での中地区の問題点と対応策
 - ・人口減少
 - ・空き家の増加
 - ・共同墓地の問題
 - ・農業の後継者の問題
 - ・自治会役員の若年化
 - ・自治会未加入者の対応
 - ・祭りや催事の縮小
 - ・上下水道と水道組合
 - ・医療機関の不足
 - ・人口減少を前提とした対策の必要性
 - ・学童の問題、班や地区の統合の可能性
 - ・移動の足、公共交通について

2 | 農業者の方々（1）

- 1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり
- 2：中地区の農業の現状
 - ・牛の肥育について
 - ・トマト栽培について
 - ・飼料米について
 - ・イチゴ栽培について
- 3：昔と今の変化
 - ・作物の昔と今の変化

- ・推進ではなく衰退している状況
- ・農業との関わりや理解が無い人の増加

4：農業の継承について

- ・作り手がない田んぼの対応
- ・後継者の問題
- ・新規就農支援の仕組み

5：中地区で守りたい大切なもの

3 | 農業者の方々（2）

- 1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり
- 2：人口減少と中地区の変化
 - ・集落営農組合
 - ・生き物調査
 - ・地域のよりどころ、小学校と公民館
 - ・医療機関や買い物できる環境の不足
 - ・地域活動の担い手について
 - ・農業収益の問題と後継ぎについて
 - ・行政の役割、行政に期待することについて
- 3：これからの課題
 - ・米作りについて
 - ・自給率の問題
 - ・後継者育成について
 - ・なつみずたんぼと渡り鳥

4 | 子育て世代の方々

- 1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏
- 2：学童保育について
- 3：田園部での子育て環境～昔と今の変化
 - ・住宅事情
 - ・小規模校の特色と通学の状況
 - ・学外での活動の状況
 - ・地区での親睦行事など
 - ・放課後の遊び
 - ・地区の祭り
 - ・人口減少や移動の問題
- 4：子どもたちの将来

1 | 自治会リーダーの方々

参加者：川入、小袋、下河原田、生駒の自治会長、計4名

実施：2024年6月10日 18時～19時30分

場所：中公民館（うずま館）

1：参加者の方々の地域や農業との関わりや生活圏

◎高校まではここで過ごして大学進学で東京に出たが、長男なので本社が宇都宮の会社に就職。小山勤務でスタートして関東各地に転勤。定年を機会に小山の支店に戻り、66歳から午前中だけの勤務になり、やっと地元で定着感が出てきて自治会のこともやっている。

生活圏は栃木と小山。

◎親は、米作りをしていて、自分も中学生くらいの頃に手伝った記憶がある。父親が引退し近所の人に田んぼをやってもらうようになって、今もそれを継続している。

◎務めが金融機関で国内各地を転勤で回っていた。55で退職して子会社がある東京へ往復4時間かけて通勤、その後、浦和勤務、リモート勤務を経て、退職。そういう状況だったので、地域との関わりで言えば、近所の人にもわからない状態だった。こちらから通っていた時もあるが、朝が早くて帰りも遅いので顔も合わせない。ここへきてやっと落ち着いたので、ある程度、調べたり話したり、関係を持てるようになってきている。自治会の役員は、うちはルールで、会計、副会長をやって会長ということで、もう3年。実家は農家で米や大麦を作っていたが、今はもう人に貸して耕作してもらっている。

◎生まれも育ちもずっとここで、下野市の会社に勤めている。普段の生活もほとんど地元。実

家から出て、田んぼだったところに家を建てて住んでいる。

◎地元で生まれてずっとここで過ごしているが、学生時代に通った栃木や足利も生活圏。今もまだ栃木市の会社に勤めているので、自治会の活動との時間のやりくりが厳しい時もある。去年、副会長で、今年が会長、来年は会計の予定。

◎務めをいったん辞めたときは、小袋の組合に入って10年ほど米作り、野菜づくりをやっていた時期もある。面積が小さいので米作りは採算が合わないと思っていた。今は他の人にやってもらっているが、肥料の値段は上がる、コメの値段は下がるで、大変だと思う。

2：昔と今の地域（農業）の変化

◎昔は農機具が全然なかったから、マンパワーという形で周りの人と協力し合っていた。家族だけで田んぼをやるのは無理なので。手伝ってもらって、自分も手伝う。お金で頼む関係ではなくて。

◎今はもう農機具がしっかりしているから、一人でなんでもできてしまうような時代だが、昔はそうではなかった。だからコミュニケーションが取れていたし、まとまりもあった。田植えが終わったら、さなぶり（早苗饗）で、みんな集まって飲み食いしていたという話を聞く。

◎だいぶ昔、祖父母の時代の話になるが、家の前で田植えする苗を育てる。田植えの時は、その苗を大人が植えている田んぼにぶん投げて補充してやる。その手伝いを子どもの頃やっていた。

◎玉がついた紐を引っ張って、苗を植える間隔を均等に決めていた。

◎だいたいみんな泥んこになって帰ってくる。

◎稲刈りも、みんな協力して順番にやっていた。はざかけして乾燥させていた。

◎牛や馬も飼っていた記憶がある。牛小屋とか馬小屋とかが合った。

◎ある程度、家の敷地に余裕があったから、それで牛を飼って肉牛として売って、少し生活の足しにしていたところも。

◎家を建て直すときに、コンクリートで作ったサイロの跡が出てきた。牛馬の餌の草をためておく。

◎牛糞ではどこも堆肥を作ったりもしていた。

◎今でも堆肥は貴重。牛屋さん、やめないでほしい。

◎下初田の牛舎では、軽トラ 1 杯 500 円いくらで売ってくれる。

◎満タンに積むと軽トラが動かなくなるが・・・。

3：現状での中地区の問題点と対応策

当日参加の方から、中地区の現状での問題点と対応策についてまとめたプリントをお配りいただいたので、その観点に沿って座談会を進めた。

1.人口減少

①空き家の増加

- ・空き家の管理（一覧表作成→所有者：売却・老後移住・更地・墓地）
- ・空き家予備軍把握・情報収集
- ・共同墓地管理（墓地管理者→自治会長）
- ・墓地埋葬に関する法律→墓地管理者・役所は納骨場所を把握しておく義務がある。

②農業後継者無し

- ・10 年後には限界、耕作放棄地が発生するかも。調整区域のため売却厳しい。
- ・経営体（共同運営）の縮小、H26 農地バンク設立
- ・R2 年「人・農地プラン」アンケート調査（農政課）→R2/11 結果還元

③自治会役員の若年化

- ・自治会長が 65 歳未満となり、本部自治会運営に影響が出る。

- ・自治会長は 65 歳以上でないと会社勤務との両立は難しい。

④自治会未加入者の対応

- ・災害時、ゴミ出し、一斉清掃参加

2.行事

祭り等縮小・廃止

- ・参加者減少に伴い 4 件→1 件（神社秋祭）にし、役員のための開催に縮小
- ・R2 年より、しめ縄づくり・神社年番を廃止し、神社会計は自治会へ統合

3.インフラ

水道組合

- ・水道管施設の老朽化（60 年超経過）、市水道導入には費用負担増

4.その他

- ・コミュニケーション不足
- ・補助金割合の割増をお願いしたい
- ・自治会員縮小→自治会費における固定費割合増加

人口減少・空き家の増加と

共同墓地の管理の問題

◎私の感じだと、ここ最近 5 年で空き家が増えてきている。

◎その前はきっと、ぽつんぽつんとあったかもしれないけれど、今後、将来的に考えると、最低でも 2 年に 1 軒ぐらいつつは減っていくのではないのか。

◎生駒の場合は今 64 世帯、きっと 5 年後ぐらいには 60 は絶対割る。

◎下河原田は幸い、何軒か私も知っている範囲で空き家になっているが、その後また新しい人が購入して入ってきたりした例もある。

◎それは少ない例で、将来的には、うちもそうだが子どもが帰ってくるかどうか分からないので、将来、空き家はどんどん増えていくと思う。

◎両親が亡くなるのが結構早かったので、10 年近く空き家にしていて、月に 1 回ぐら草むし

りで帰ってきてきた。今は（退職後）、その実家に住んでいる。

共同墓地の問題

◎人口減少で生じてくる問題で、墓地のこともある。生駒公民館の裏が共同墓地になっていて、生駒の世帯の人たちはそこを使っている人が多い。きっとそういうところは他の集落でもあるのではないか。大川島もやはり共同墓地があるそうだ。

◎田んぼの中にありますか。

◎お寺さんの墓地ではなく、共同で管理する墓地。法律で墓地管理者というのを置かなくてはいけない。お寺の場合は住職さんが墓地管理者になるし、霊園のようなところだったら、きっと霊園の管理者が墓地管理者になると思う。墓地管理に関する法律で、骨の保管場所がどこかというのを管理しなくてはいけない。だから、入った場合はいいのですが、ではやめて墓じまいしてしまおうとかとなってしまうと、ではその骨はどうなったのかというのも管理しなくてはいけない。それを市が管理しなくてはならない。毎月5日ぐらいまでに、もしそういう変更があった場合には報告しなくてはいけない。そういう法律の内容。要はそういう管理を今後どうしていくかがあって、そこも検討していかないといけない課題。

◎小袋の場合は2カ所あって、1カ所は管理者というか墓地内のグループを作って、草むしりなりそういうのを順番で回していくらしい。もう1カ所は個人で自分のお墓含めて管理している。

◎空き家の問題と、共同墓地の問題はセットで考えないといけない。

◎管理する人がいなくなったら、きちんと墓じまいして、更地にしてくれればいいが。どんな手続きなどがあるかはわからないが。そういうことをやはりある程度情報収集しておかないと

いけない。みんないなくなった後になっても、情報収集できない。予備軍のあたりから情報収集しておかないと。民生委員との共有や連携も必要かと思う。

◎民生委員の方はきっとそういう一人暮らしのところとかを回っていただいているはずなので、その辺からある程度の情報が欲しい。民生委員は、生駒の場合だと、大川島と一緒に、6年交代でやる。今は大川島の人。来年からは今度は生駒で、集落ごとであればある程度集落の把握は情報交換できるのだが・・・。

農業の後継者がいない

◎私は家の農地を貸して耕作してもらっているが、それは集団の経営体、共同運営でやっている。コンバインだったら1000万もするので、集落の農業者が共同で購入して、それを使って大きくやっている。そのような共同体が生駒の場合は、5年ぐらい前は2つあったが、農業をやる人が減って、今は1つになった。これが将来的にはもうできなくなる、後継者がいないから。

◎そうなってくると、今まで田んぼを貸して米を作ってもらっていた人も、返されちゃう。

◎返されても、できませんとなってしまったら、もう荒れ地になってしまう。ちゃんと区画整理で広い田んぼになっているところも、あれが草ぼうぼうになる可能性が高まっている。その前に手を打つと思うが。

◎うちなどは農家だが農地は要らない。土地を貸して耕作してもらって、小作料という形で米でもらったりしているのですが、4、5年前まではある程度もらえていたが今は肥料代とか物価が上がっているから、共同でやっても採算が合わない。4、5年前に比べたら半分以上。30キロを10袋もらっていたのが。そうしたら今年あたりはきっと、3袋か4袋だと思う。売却するしかないが、買う人がいない。調整区域なので農

家しか買えない。子どもでも家を建てたいというので、調整区域を宅地化してやるというのだったらできるかもしれないが、それ以外で、それを売ることができない。農家に売りたいのですが、買う人がいない。

◎今は、農協にある農地中間管理機構が、貸したい人と借りたい人の仲介に入ってくれる。今まではなあなあで1対1で田んぼを貸していたと思うのが、そこに農地中間管理機構に貸したい人がいったん登録し借りたい人もここに登録する。この機構を通せば最低10年間は保証される。ただ、その先はちょっと分からない。

◎うちの場合は田んぼを貸したいと言った時は農業委員の人が農地中間管理機構を通してくれて、10年間この金額でいきましょうというのは一応お互い書いている。

◎令和2年の「人・農地プラン」のアンケートの結果がこういう風に出てきているが、集落（自治会ごと）の結果を見ると将来は暗い。

◎こういう情報を細かく分析していくことが、将来を考えるのに必要な情報が出てくる、大切ではないか。

--

補足：小山市中地区生駒のアンケート結果に記載されていることを引用転載「対象地区の課題：当集落には、中心経営体となる認定農業者は2経営体である。その他、人・農地プランにおいて1経営体が中身経営体に位置づけられている。中心経営体の引き受ける以降のある耕地面積よりも、75歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積および後継者不在の農業者の耕作面積の合計が0.5haを超えており、新たな農地の受け手の確保が必要である」→R3年3月作成のデータ（小山市HPで公開）では、「中心経営体となる認定農業者は2経営体であり、集落営農組織が1経営体である。今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、75歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積、後継者不明の農業者の耕作面積および後継者がいない農業者の耕作面積の合計が10.5ha多く、新たな農地の受け手の確保が必要である」と、1

年で、0.5haから10.5haに増えている。

◎中地区では、イチゴの里は成功例としてあるが、では、他のイチゴ農家はどうかというと、辞めている人が多いと聞く。

◎今の世代でやめてしまっている。もう後継者はいない。もうそうになってきてしまった。

自治会役員の若年化

◎自治会長が65歳未満ということになり、問題も生じていると思う。だいたい、会計、副会長、会長と3年間続くところが多いと思うが、少し先になると今度は50代に入ってしまうかもしれない。順番からしたら。

◎うちの場合は、今は68歳とか67歳とかの年代でできているが、きっとあと2、3年後になったら、その年代は急に減っていくはず。

◎そうなりますよね。そうしたら、今、65歳から年金をもらうので、65歳までフルで働くのは当たり前な時代。この会議にも、もし私が62、3歳だったら、この6時からの会議は間に合わない。他も全部、欠席になってしまう。ただ、集落の行事だけは土日だとできるので、そういうことはできても、小山市からの会議などは、全部、欠席になる。

◎だからもう自治会役員は誰もできないということになってくる。

◎班長の集まりが、自治会費を集めるので集まったときに、他にもいろいろな細かい役員があるが、特に消防団など若い人がいない。やはり困ってしまうので、病気などそういう事情以外の方は、順番に強制的にやっていただかないと成り立たないということを話しました。やはり「フルで勤めていてできないです」と言う方もいるが、みんなが、そうになっているので、もうどうしようもない状況になっている。

◎フルで働くとしても、60を過ぎたら、半日だけとか、週に何回だけとか、いろんな形態があ

り、そういう場合は、平日の会議にも都合がつきやすいと思うが。

◎だから逆に、私などは思うのですが、市からの要請の役員や委員などいろいろあるが、あれも全て考え直して統合できるものは統合したほうが良いのではないか。今後はそういうこともちょっと考えてもらいたいと思う。

自治会未加入者の対応

◎自治会に入らない世帯で、一番多いパターンは、「おじいちゃん、おばあちゃんの子どものが別に隣とか、少し離れたところへ家を建てて、一応、2世帯なんだけども、こちらは入らなくても、親のほうで自治会費を払っているんだからいいよね」という場合。あと、引っ越してきて、1人世帯なので入りませんというパターン。

◎防犯訓練などをしたときに、自治会の行事としてやるので、未加入の人は対象ではない。しかし、小山市とすれば、全体、全市民をカバーしなくてはいけないはず。こういうところが漏れてしまう。

◎ごみ出しも自治会で管理していて、収集場所が壊れてしまえば自治会費で直している。本当は自治会未加入者はそこを利用してはいけないというか駄目なわけだと思う。そうした場合には、本当にそれでいいのか、ということもずっとある。一斉清掃とか、家庭用排水路のごみさらいとか、そういうのもどの家庭も排水路を使っているはずなので、本当は自治会に入っていないでも出てもらわないとおかしい。

◎うちの自治会も未加入者が何件か出てしまったらしくて、ごみはいずれにしても班内で相談して、（自治会費は納めていなくても）税金を収めているから駄目とは言えないという結論にはなっている。

◎清掃は、自治会に入っていない世帯も一緒にやっている。

◎うちの自治会では未加入が2軒ぐらい。自治会に入っている親と、別世帯を作った子ども世帯は、未加入。自治会の寄り合いは親が出てくるが、水路の掃除とかには息子が出てくる、など、そういうケースはある。

◎本当は2世帯あるので、本当は2人出なくちゃいけない。

◎本当は。ね。加入世帯の戸数を書類に書く場合に、本当は2世帯あるはずなのに・・・と悩む。

◎戸数を数えちゃうと自治会費をもらわなといけない。

◎うちの自治会では、水道料金は世帯が別で、子ども世帯が自治会に入っていないなくても、お風呂があり使っていれば、親世帯とは別に支払ってもらっている。

祭りや催事の縮小

◎昔は、一年を通じていろいろなお祭りがあって、みんな集まって飲んだりとか、農村の楽しみだった。夏祭りがあつたり、花祭りがあつたり。ただ、もう参加者というのは一定割合、同じ人ばかりで若い人はほとんど出てこない。生駒の場合は四つぐらい祭りがあつたが秋祭り1つにした。やると言っても、もう形式的に。自治会三役と神社の役員さん数人で集まって、形式的に神主さん呼んでやってもらう。

◎小袋も同じだ。

◎コロナがきっかけで辞めたり、縮小したり。だいたい農家が多いので時間の都合もつくから、半日ぐらい人が集まってやったこともあったが。

◎生駒の場合は、神社の鳥居のしめ縄を、専用の稲の栽培から自分たちでやって、それで準備して、納屋とかを借りて吊るして、3、4人で編んで、完成したら、みんなで飲み会して。のように手をかけてやってきたが、それも廃止した。神社用にお金も集め神社の会計も置いて

いたが、それも無しにして、全部自治会に統合した。

◎うちも会計は別になっていて、お祭りのときには一軒一軒回っておひねりみたいのをちょっと集めていた。

◎最近気づいたことだが、これから古い神社の修復という問題も出てくる。生駒の場合は何もやっていなかったのも、最低でも3年の間に300万ぐらい集めなくてはいけないと思う。神社の屋根はちょっと特別で、普通の家の屋根だったらいいのだが、瓦と瓦をつなぐのに土でつないでいる。泥で。瓦もちょっと特殊な瓦。きつとあとそんなに長く持たない。見てくれた人に、もしかするともう屋根が潰れると、そう言われた。危ないよって。

◎下泉は神社が三つか四つあり、昨年、修復をやったのではないか。上泉も修復していると思う。

◎下河原田は大きくなった古木が大変で、倒れたら屋根が壊れるというので、少し切ってもらった。ちゃんとやるには大型のクレーンでないと無理だということがあって、今年はそこは断念した。

◎生駒も、木が多くて伐採しているが、今年も4本ぐらいやろうかなと思っているがそれがきつと十何万かかかと思う。それも草刈りも自治会でやっている。

◎川入では、自治会とは別に神社は神社で役がちゃんと決まっている。その順番も、去年、決めておこうということになって、この先20年ぐらいの順番はもう決まっている。修繕費というのは神社にはない。今度、公民館の修繕費も神社のほうにも使えるようにと決めようかと考えている。そういう話が出てきて、話し合ってくれということ。

◎公民館の修復とかは補助金が出るが神社は出ない。世帯がどんどん減っていけば、どうしようもない。だからもうあとは神社をつぶしてし

まおうかという話になってしまうのではないか。

◎やはりつぶすという話も昨年出た。後がなくて、やる人がいないのでは、無くしてしまうと。

◎本当にそうそう。そうになってしまう。

◎だが、神様に豊作を願っているんだから、そういうことはしないでくれっていう意見があった。

◎潰しちゃうと、誰が潰したんだということになり、そこにまた、罰当たりではないけど、何かあったら大変だという感じで。

インフラ～水道組合

◎中地区の場合だと、ほとんど同じ時期に共同水道で水道組合を立ち上げているはず。それがもう60年を超えている。基本的な配管がどこを通っているかの正確な地図がない。だいたいここが通っているんですよというのはあるが・・・。

◎確かにそう、図面がない。

◎地震でも起きて断水になってしまったら、相当な世帯が断水状態になってしまう。どこが断水になっているか、分からない。

◎自分のうちは、この辺を通っているよみたいなのはわかると思う。

◎この辺、ということしかわからない。今だったら道路のギリギリを通すような形になっているが、昔はそこから1メートルぐらい奥のところを適当に通している。

◎うちのほうは道の真ん中を通っちゃってる。

◎目印が何も無い。

◎水道組合の資料を見ても何メートルの井戸を掘りましたよというそういう記録はあるが、ただ水道管が設置された時と、地面の上の様子も変わっているので、昔の街道沿いに通しているはずだが、今、その街道がなかいなど・・・。

◎作るときに、その集落の人が集まって、掘っ

て管を埋めたみたい。だから、その人たちはある程度、ここを通っているんだよというのは分かる。その人たちが今、言ったように、60年かかっているから、70半ば以上の人は掘った経験があると思う。その人がいなくなってしまうと、今度はどこか分からなくなる。

◎一応あることはあるところも。手描きでこんな感じで。

◎うちのほうは、資料はかなり何冊もあるので、ひっくり返せばあるのかもしれない。

◎市の水道を引くことはできる。それは、例えば生駒の場合ですと、50号の県道が通っていて県道沿いに通すということはできる。それは無料で市がやる場合でも、その本管から自宅まで引くのは自腹でやってくださいよという形になる。そうすると、例えばうちだと通りから150メートルぐらい入っているから、道路は今、土の道路ではないですから、アスファルトを剥がしてそこへ管を通して、アスファルトを埋めてといったら、100万なんかでは終わらない。

◎自治会それぞれで、ポンプは何箇所か持っている。

◎2年ぐらい前に、汚れが出ている、何回も止まっているというので見てもらったら、もう配管のところがおかしいので、直す必要があるということになり、修理をした。修理には何割か、市から補助が出る。

オブザーバー参加の職員より説明：中地区は市の水道が通っていないので、全て地下水です。自治会でなくて、先ほどおっしゃったように、川があったりとか、大きい道があったりしたところは、もうそこを通せないで、自治会の中で多いところだと3カ所、4カ所ぐらいの各水道組合ができています。その水道組合に入っていない人は、自分のうちで軒だけで井戸を掘っているという状態になります。昭和37年ぐらいからそういった共同水道ができたので、だいたい5、60年ぐらいたっている水道が多い。排水管というか給水管に関しては、お

金をかけないために皆さん手掘りで、畑の道路の際を通すような感じなので、だいたい畑の端っこを、たぶん2、30センチぐらいの浅さで。

◎生駒の場合は1メートルぐらいあった。

そうですか。境界からの距離を測っていないので、どこを通っているかというのは、本当にその当時、掘った人しか分からない状態で。図面に関して、その図面がある共同水道と、そんなのない共同水道があって、本当にないところはもう図面も何もありません。自治会に付属しているわけではないので、そこの組合長が代々引き継ぐ感じなので、書類自体が紛失しているところがあり、半数ぐらいはないかなというところですね。なので、中地区自体でたぶん全部で3、40カ所ぐらい、こういった組合があると思うのですが。だからそれはもう自治会とは全く違う組合になっているので、どういった管理をしているかは、もう全然。水道料金が本当にポンプの電気代だけ取っているところとか、あとは改修するために積み立てを取っていて、すごく高いところとか、月に1000円以下の水道料金しか払っていませんとか、年間に5、6000円集めているだけですという水道組合もあれば、ちゃんと月5、6000円取っていますというところもあったりして、本当に*差がある状態です。

◎うちのほうは水道メーター付けて、1立米単価いくらという。あと基本料金。

◎うちのほうもメーター付いていて、1立米いくらで計算。

◎使い放題。一律いくら、年間いくらです。

◎うちは年間定額料金。年間1万2千円。

◎メータを測るのは、毎月順番で回る。

◎検査して、金を集める。

職員より：農家をやっていて、苗代とかをやったりするので、ものすごい量を使う家もあるが、共同水道なので、市の水道料金よりははるかに安くて。農業にもばんばん使っている状況。多いところは1カ月で100立米ぐらい使ってしまうとか、そういうところもあって。それが水道料金、市の水道に換算すると、月で4、5万ぐらい使ってしまうという方もいらっしゃる。ただ、農業で使うので、そこまで水道料金は徴収できない

ので、一律とか、農業用は特別料金みたいな感じで格安とか、そういう組合ごとのマイルールみたいなものがあるようだ。一応、市のほうから環境課で改修費、3分の1ほど補助金が出るが、それを利用している状況。ただ、井戸の建設というか、本当にちゃんと掘り直すと、5,600 万かかってしまうので、積み立ててもそれが一瞬でなくなってしまうという感じで、老朽化に関してはかなり問題にはなっている。市のほうでも対策を取らなければならないところで、今いろいろと動いている状態。

◎できればこの水道管、水道組合を今後維持していくといたら、絶対できないと思う。

◎人口が減っていく中で、老朽化した設備を修理して、配管も全部もう一回やり直し、何百万、何千万かかるか分からないけども、それをやるんだったら、もう 1 個 1 個井戸を新しく掘ってもらって、随時やってもらう。その代わり、市のほうで補助金を出していただく。そういうやり方が一番コストパフォーマンスがいい。

職員より：市の水道を引くという試算はしたが、やはり本管を引くだけで 100 億ぐらいかかる。総額がそれぐらいかかってしまうので、しかも 1、2 年でできるわけではないので、実際、現実的ではないというところで。であればやはり、先ほどおっしゃったように、各自で井戸を掘って、そこに補助金を出すとか、そういうほうが。特に地震があったときに本当に本管がどこかでズレてしまうと断水してしまうので、それだったら、各戸に井戸があったほうが災害のときももしかしたら、水が使える状況になるかもしれないというメリットも。一概にして市の水道を通せばみんながすぐ使えるという状況ではないので。そういったことも含めて、ではどういうことがいいかは、今、いろいろ調整というか、調査しながらやっている状況。

医療機関の不足

◎今年、1 つあった医院が閉まってしまった。新しい医者に来てくれるよう、探しているよう

だが、見つからなければ、無医村になる。

◎寒川も病院がないから寒川からも来ていた。

◎大平からも来ていた。かかりつけという昔から世話になっている人だったみたいだが。

◎だから、市にお願いしたいのは小山市全体を通しての共通のアンケートでは、駅の向こう側とこちら側では、状況が全然違うので、過疎地域用のアンケートを作ってもらった方が良かったかもしれない。

人口減少を前提とした対策の必要性

◎病院も無くなるし、農業も後継者が圧倒的に不足している。そういうところだから、まちづくりといってもまちづくりはできない。現状維持も難しい。だから、減ることを前提にした対策を打っていったほうがいいと思う。

学童の問題、班や地区の統合の可能性

◎自分たちの子ども世代が、いったん外に出てとして、子育てをするタイミングでこの地区に戻ってきたときに、ほとんどが共働き。そうすると、今がそうなのだが、子どもたちが学校が終わった後、ぼつんと浮いている状態になる。これは妻から聞いたが、学校で預けられる場所のようなところを設けた方が良い。面倒見る人の問題だと思うが、お母さん連中がやっていると負担が大きいので、NPO 法人のような形をとってできれば、預けるほうも安心だしという話を聞いた。

◎孫がいないから分からないが、この地区には学童保育はないんだ。

風景社：寒川にも共通して問題になっているのが、子ども園などで小学生も学童保育として預かってくれるが、小学校からその学童まで、自分で歩いて行かなくてはいけないということ。小1でも、炎天下の夏でも、距離が長くても。子育て世代のお母さんたちのグループインタビューでも、子どもたちの放課後の居場所という問題は大きいというのが出てきている。

◎そういうサポートがちゃんとしていれば、将来は安心して学校に通えるようになるという話を聞いた。

◎中学は半分が美田中へ来て、半分が間々田へ行っている。距離的にそのほうがいいから。だからこれは将来的には地区の統合もあるんじゃないかなという気がする。寒川も要は美田中に通っている人は中地区と一緒にになるとか。間違いなく人口が減るのは寒川も同じなので、そうしたらそういうふうに地区の統合も将来的にあるのではないかな。その前に学校も統合ということになるのか・・・。

◎中小学校も将来は穂積と統合という可能性も出てくるのか。

◎川入自治会には3班あって、班長がその中で広報とか配る。どこもそうだと思うが、86歳の夫婦がいるが、歩くのもままならない状態で、その人が班長になったとき、広報を配れるかといわれれば無理だと思う。その辺の対策として、何かありませんか。

風景社：今まで、例えば絹地区とか、そういったところでもそういうお話はあって、班の数が多過ぎるから少し班を統合してほしいみたいなお話はありました。

◎中地区の平均の班の人数は8.8人。川入は1班が8.8人以上だと思う。配るのも大変。

◎班で多いところだと23軒。少ないところで16軒。

移動の足、公共交通について

◎われわれも歳を取ってしまったら、公共交通機関しか頼れないので、今の不便さが、今後ますます気になる。

◎正直、乗るまでが大変。バス停に行くまでが。

◎1日に2本ぐらいしかないのでは？

◎どこを通っているんだか分からない。

◎道の駅とイチゴの里には確かバス停がある。

◎美田地区は社会福祉協議会か何かで、通院や

買い物や送迎のボラをしているようだが、

◎やる人も高齢者だ。

◎最後に、会社勤めしていると思うに、展示販売会とかをしているのだが、小山市にそういう会場があるといい。イベントとか音楽にしても、文化センターがあるにしても、広い屋内の建物で、活用の幅が広く自由にいろんなことをやれるような。駐車場もそこそこ広い施設。アクセスを整えて、田園地帯に作れたらいいと思うが。

◎道の駅が、ぽつんとあるので、周辺を大規模に整備できたらいいと思う

2 | 農業者の方々（1）

参加者：30代から70代。中地区で営農されている方々、6名

実施：2024年3月13日 18時～19時30分

場所：中公民館（うずま館）

1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり

◎勤めの傍ら兼業でやっていて、定年になってからも小規模ながら米と麦を作っている。農業委員、西部土地改良の理事と、多目的の支払金の代表ということで、田んぼとか花を植える植栽活動、あとは子どもを入れての生き物調査とかを代表してやっている。

◎60アールで、だいたいお米を作っている。他をやると赤字になってしまう。他には、家族や兄弟の野菜を自家消費分だけ作っている。農地利用最適化推進委員を4月からやっている。生活圏は栃木方面。思川を超えて東へ行くのはなかなか大変。思川を超えても、すぐには店がない。ずっと向こうまで行かないと。

◎両親が農業をやっていて、自分は脱サラして農業を。専業で米と麦とイチゴをやっている。勤めは佐野に行っていて、今の普段の生活圏はやはり栃木市方面が多い。

◎株式会社にして、米と肉牛の飼育をやっている。経営規模としては、肉牛が230頭、田んぼは20町、これからできる限り拡大していきたいと思っている。農業を安定させて地域に貢献できればと思う。田んぼは、もう自分でできなくなったからやってくれという話が多い。貸したいという人がいる時に、いつでも手を挙げられるかどうか分からないが、できる限りは引き受けられるように、そういう体制を常々取っておきたいと思っている。

◎専業で、私夫婦と息子夫婦と4人でやっている。イチゴを主力に、飼料米とビール麦を作付けている。令和7年あたりから息子に経営を渡すことを考えているが、イチゴと田んぼのバランスを見直そうと考えている。

◎専業で、父親とパートさん10名くらいと、トマト7反、米麦、大豆を併せて14町くらい。営農は穂積地区管内になる。農業が中心の毎日で他には特に活動はなく、生活圏は小山市域になる。

2：中地区の農業の現状

牛の肥育について

◎肉牛の肥育は、飼料などの値上がりがこたえるが、一般的な子牛を買ってきて肥育して出荷するというのを繰り返すやり方ではなくて、繁殖雌牛を置いて子どもを産ませているところからやっているの、仔牛を買う時に発生する中間マージンもなく、高い出費というのを無くしている。肉牛の作り方やエサなども全部仔牛のところから積み上げられるので、その点は経費の削減ができていし、販路もできているので、そこは強みかと思う。

トマト栽培について

◎何か野菜を作ろうということになって、トマトがいいのではないかと父に勧めてハウスで作り始めた。（圃場は穂積地区内）

◎加工用ではなく、全て生食用のトマト栽培。たまにB品も出るが、ハウスの中に残しておくと虫が寄ってきたりするから摘み取って自家用にしたり・・・。

◎3mほどの高い空間のハウスの中で、ハイワイヤーという方式で上から誘引してトマトを育てていく。収穫時期のものが人の目の高さになるような仕組みでやっている。

◎パートさんを雇うとなると、計画的にこの時

期に来てほしいとか、来週はこの調子だとパートは要らないとか、労務管理というのは難しいところもあるが、何とかやりくりしてやっている。

飼料米について

◎その考えは大事だと思う。うちは、食米は買って、飼料米をつくっている。

◎機械は借金してまで買わないで、持っている人に頼んで刈ってもらう。

◎米は、食用だけ作っていても米価が安いから割が合わない。

◎今、施設の利用料（脱穀や保管など）だっ得上がっている。

◎今のところ、飼料米は安定して補助金とかが出ている。収量に応じての補助金になるが。

イチゴ栽培について

◎今、とちあいかという品種のイチゴを作っているが、成りすぎというか、たくさん採れるので、面積を減らさないと、作業が間に合わない。それでどうするかを家族で話し合っている。令和7年あたりから息子が継ぐことになっているが、イチゴを減らして。その分、田んぼを借りて米作りをしていくことを考えている。

◎県が一番力を入れている品種だが、収量が上がるので、面積的にもとにかくロスが多くなってしまう。パートさんなど人を頼むとやはり人件費がかかるので、できればイチゴは最小公倍数でやりたい。米関係も、今は自分の家の分だけしか作っていない。コンバインもトラクターも、すぐに作業が終わってしまうので、農機具がもったいなくて。

◎後継ぎの息子と話し合っているが、イチゴは息子がやって、自分は、今ある農業機械をマックスに活用できるように、田んぼを借りて米作りをやる。そういう計画で、周囲にも使っていない田んぼがないか声をかけているところ。

◎とちあいかは甘くて大きくて、購入者にとっては、いいと思う。

◎とちおとめの需要もある。

◎とちおとめも、いつまで県が推奨していくのか。

◎次の品種が出るまでだろうが、ちょっと問題多すぎると思う。

◎行政も方針を変えることが多いので、こちらとしては、どっちに転んでもいいようにやっていかないといけない。

◎だから、借金してまでやりたくはないという考えもある。

◎国の補助金だってなくなる可能性もあるし、これから先は分からないから出金はしたくない。だから借金しない最小公倍数のマックスで、できるだけをやる。

◎とちあいかだけではなく、とちおとめもやっている。来年からとちおとめを増やして、やっと半分ずつになっていく予定。いろいろな問題を聞いていたから。

◎スカイベリーもやっている人はいる。ただ、少ない。小山で5人いるかいらないかではないか。

◎部会としては、とちあいか、とちおとめ、スカイベリーでやっていきたいと思います。

◎今は買う人も粒の大きさにこだわる人が多いし、甘くないとダメという人も多い。

◎でも、甘くすればいいというのもまたおかしい話だと思う。甘けりゃいいんだったら、砂糖なめてればいい。イチゴらしさとか、トマトらしさとか、そういう味も大事。

◎余談になるが、平成から令和に変わる時、イチゴの部会長をやっていて、大嘗祭っていう、神様に天皇陛下がお供え物をする儀式に、皇居まで持って行って小山の部会のイチゴを献上したことがある。

◎そのときは、日本でイチゴを献上したのは栃

木、しかも小山だけだった。

◎献上の際には、ポスターとかいろいろ作って、一応宣伝したが、少し弱かった。栃木は宣伝が下手。要は地味だと思う。

◎やっと U 事工事が出てきて、少し知られるようになった。農産物もいいものがたくさんあるのに。

◎まあ、品質で評価を貰えば、それが一番だと思うが。

3：昔と今の変化

作物の昔と今の変化

◎ここはずっと米中心の地区。

◎自分たちが高校生だった頃に土地改良事業があって真四角の大きいところで 50 アールの水田に。水はけももちろん悪いところもあるんだけど、大型化が進んでいった。

◎農機具は田植え機が使われ始めた頃。コンバインもそうだし。それから徐々に大型化になって・・・。

◎イチゴはかなり作っていた。軒数もまず多かった。集落によっては軒並み皆がイチゴを作っていたり。あと、玉ねぎも結構、作っていた。

◎牛の肥育農家も多かった。

◎養蚕は中地区では昔からいなかったと思う。穂積は、稚蚕飼育所があったから桑畑も多くて何軒か養蚕をやっていた。今も 1 軒だけやっているようだ。

◎昔との変化で言えば、米を作っていて、最近では畦畔の雑草の伸び方がすごい。稲穂が出ている中でも、雑草がその上に伸びている。みんな忙しいし、人出不足もあって、田んぼが荒れてきていると感じる。

◎減反政策が始まった時も、大変だった。メジャー持って田んぼの中を測って歩くんだから。

◎そのうち国の政策がコロコロ変わったし、営農集団を作れと言え作ったのはいいけど、や

っぱり今になってふっとんじゃった。本当は集落営農を作れだのって。20 年から 30 年単位で政策が変わっちゃう。米だって何十年も値段が上がらないで。

◎下がるばかりだ。

◎だいたい今は、農地の資産価値は早く言えばゼロ。農地を守れ守れって言っても、もう農業はやりたくないという人も増えているのに。

◎優良農地に・・・と言っても、要するに生業として成り立たなくちゃ駄目。

◎補助金で釣っているが、魚釣りじゃありゃしない。

◎それも何年かで変わってしまう。

◎食いついたと思ったら違うエサで、こっちのエサをくわえてはダメですよ、変わりますから、と。

◎これから人口は減っていくんだから食べる人がいなくなっちゃう。

◎昔に比べて夏の気温も高いから、受粉がうまくいかない。去年あたりからおかしくなっている。

◎これからは、夏の高温に耐えられる米でなくては駄目だ。

推進ではなく衰退している状況

◎行政の人たちに聞きたいのだが、田園環境都市推進課ってことで、景観を守っていきましょうって、地区内の景観を守っていきましょうと思うが、農家さんがどんどんいなくなる。草が生え放題、耕作放棄地が増えて、今後、さらに増えてくる可能性がありますとなった時に、行政はそういうことをどう考えているのか。

◎農業資材が高騰していて除草剤も高い。高齢化してきて、なかなか田んぼの見回りも行けなくなる、除草剤も高いから、そうそうは撒けない。草ぼうぼうだと景観が悪いとクレームになる。そういう現実を行政はどういうふうを考え

ているのかということが疑問だ。

◎推進課って言っても、推進どころでなくて、今は劣化をたどっていついて、いろいろなところからクレームだったり、課題が起って、どうにかしてくれ、と。溝畔（こうはん）が荒れれば、そこを通る人も見る人も「何だこの道は」みたいになる。

◎景観が悪くなってしまうが、どうしようもない面もある。

風景社より：これまでの地区の調査結果や現時点でのビジョンの考え方などを説明

農業との関わりや理解が無い人の増加

◎他の地区の農家の知り合いが、新興住宅地に住む人から、道路に落ちるトラクターの泥や堆肥の匂いなどにクレームがあると聞いた。

◎新しく移り住んだ人は、そういうことも迷惑とを感じるのか、やっぱり。

◎結局はどういうことかということ、どの地区でも農業をやる人が減っているということは、自分の親や親戚で農業をやっている、農業に馴染みがあるという人が減っているということ。農業との関わりがなくなってくる人が圧倒的に多い。田園部に移り住んできた人は、農家と関わる機会がないし、そういう中で農業のことがわからない人たちからクレームが出てくると思う。

◎田んぼや畑で燃すのもだめだと。

◎そうですね。関わりがなくなってしまう方たちとの関係性をうまく築いていかないと・・・。農業関係のイベントだとか、そういうのも少なくなっているし。例えば*昔から、おべっかとか、そういった農家中心の親睦の会があったが、コロナもあったのでほとんどなくなっている。

◎農業地域ではあるが、農家がいなくなってきた非農家の方が増えてくると、また、空き家が増えてきてとか、そういった形になってきた上

では、やはり、いろんな人との関係性を良好にしていけないと。良好にするといっても難しいけど、ある程度こういうふうにしていこうという明確化がやはり必要なのかなと考える。

◎理解してもらわないと。

◎そしてまた、こっちだけ理解してくれと言うだけでなく、向こうの要望とかもやはり聞かないと。

◎逆にいうと、米作りしているところで車が何台も通って、ではその排ガス、どうなのか、ということ。

◎こういう問題も人間性がよくできていて関係がよければ起きないと思う。おべっかもそうだが、地域の中の行事も減ってきているから、人間関係が希薄になってしまっているのも、問題がこじれたり大きく広がっているようにも思う。人間関係をよく築くようなことをしていけば、多少はお互い我慢しながら暮らしていけるようにするのが理想だと思う。

4：農業の継承について

作り手がいない田んぼの対応

◎もううちは米作りできない、という人が出た時の対応は、地域差があると思う。

◎集落によっては、他の集落（自治会）の人が、耕作放棄地を引き受けて入ってくことを嫌う年長者もいる。自分ができなくなったとしても、うちの田んぼはうちの集落の者でやっていく、という考えのようだ。

◎30年、40年やっても、農業では60代ではまだ若手という考えだから、あまり意見を言えない面もある。

◎放棄地は、状況や地域によって取りっこになったり、押し付けあいにもなったり、いろいろ難しい。

◎だから、勤めに出てしまった息子たちが戻ってきてもいいように、受け入れ体制を作らない

と。イチゴなども、新規就農塾みたいなことをやっているし、そういうことをやっていかないといけないと思う。

◎そう、そして、収入と、やればやるほど収入が上がるという仕組みにしていけないと。

後継者の問題

◎中小学校では、ボランティアが指導して、田植えはやっている。しかし、その後が続かない。

◎小さい頃はやったとして、長男坊とか、できる人がいるのにやらないケースが多い。後継ぎが農家を継がないし、出ていってしまう。空き家が増えてしまうし、じいさん、ばあさんしか残っていない。

◎農業は大事だということを、子どもたちにも分かってもらおうという意味でいうと、小学校での体験は大切だが、もっと上の年齢に上がってから教育や体験が必要。

◎高校だって、今は普通科ばかりになって、農業学ぶところが少ない。

◎親が子どもに農家を継がせない家もある。

◎サラリーマンになった方がいいよと言っている。

◎だからそれは、所得、収入の問題。それは政府の方針とかも関わってくる。

◎要は結局そこ。生活できれば、サラリーマンをやっているよりも、農業の自営の方が自分で好きなようにやれる。

◎儲からないからやらない。

◎国の政策が良くないからそうってしまった。営農集団といっても作ったはいいけど、その2代目の子どもはみんな勤め。誰が今度はやるのか？ 結局それで空中分解。

◎昔は1戸当たりの耕地面積が少なかった。国の方針で増やす人はどんどん増やして、となった。

◎面積増やしても後継ぎがいなかったら、その

後どうなる？大変でしょう。

◎世界的に見たら、日本の農業の耕地面積なんて世界に太刀打ちできるような面積ではないんだろうが。

◎やはり魅力的な職業にすることが最優先だ。

◎面積を増やした人にはもっと補助金を出さないと。

◎会社勤めの頃は、上司と合わなくて辞めたところもあるが、農業は自分次第だから大変な面もあるが、嫌な思いをすることもあまり無い。親が農業をやっていたというベースがあったから転職できた。

◎息子も東京で働き始めたが、ベースはきちんを残しておいて、何年後かに戻りたいと考えた時に戻ってきて農業をやれるようにしておきたい。東京で働いていたときよりも、生活基準が下がらないように。サラリーマンよりも少しでもいい車に乗れるとか、いい体験ができるとか、そこまでもって行ってバトンタッチしたい。

◎いい思いさせられないと、やはり親としても勧められない。

◎自分の場合は、自分が会社勤めしていた時よりもいい生活をしたという意地でやっているところもある。昔の同僚に久しぶりに会って、だいぶ落ちぶれちゃったねとか、そんな車に乗っているのとか言われたら我慢できない。だから大変だけでも、経営をよくするためにいろいろ頑張っている。

◎そういう勢いがあるというか、前向きな人が今は少ないように思う。

新規就農支援の仕組み

◎農家の出ではない普通の人も、街場の人も来て、田んぼをやめちゃった人のところをそっくり借りてやるという人もいる。よくやっていると思う。

◎東京にも新規就農の斡旋をしている会社や仕

組みがある。

◎市民農園で経験積んでから・・・という人も
いる。

◎研修生として受け入れると、その人件費に多少の補助が出る場合もあるから、それだと農家にも負担がなく育成ができる。

◎農家の長男坊で生まれたら、何の条件もなしに農業を継げる。でも、サラリーマン家庭の人が農業をやりたいって相談に行くと「2年間分の生活費や準備金はあるのか？農業始めるまでに、資材や材料費などかかるから、蓄えがないと」ということになる。これがなかなか厳しい。

◎農家の子どもは、親が大変だって言っているから、やりたくなくなってしまう。環境は整っているから農業をやろうと思えば、あまり苦労もなくできるのに。

◎親も農業はつがなくていいから役所に入れとか言ってしまうし。

5：中地区で守りたい大切なもの

◎中地区でも、人が減ったりコロナがあったりで、いろいろな行事がなくなってきた。いいことが無くなっているのではないか。

◎コロナが落ち着いて、他の地区でもそうだが、祭りなども復活してきている。その前から祭りも催事も、人が減って出来なくなってきた。

◎お囃子も復活できると思うが、もう教えられない。

◎太鼓を教える人はいない。

◎子どものときにお囃子などを見ていたけど、自分らが楽しただけで、下の世代に繋がっていかなかった。

◎中地区でも、前はほとんどの集落でお囃子があった。今はどこもやっていない。

◎お囃子の音も聞こえなくなってしまった。

◎陸の孤島になりつつあるよ。

◎本当に限界集落だ。

◎本当に寂しい状況にある。

◎人口は減っているのだから、これまではそれぞれの自治会でやっていたのを、中地区全体で協力して何かお祭りみたいのをやってコミュニケーションをとっていけばいいと思う。さっきの話の農家と農家でない人とのトラブルもそうだけど、一回会って、例えば飲んだり話したりしていれば、違ってくると思う。そういう場があってもいいのではないか。

◎中地区全体で1つのお囃子やってみるとか、そういうのもありなんじゃないのかな。

◎公民館祭りはあるけど、そういうイベントとはまた違うものがあるといい。

◎お囃子も、昔は他の地区に行って教わったり教えていたり、交流があった。

◎今、復活するのは難しいかもしれないが。

◎だからやはりちょっと大きな範囲で、中地区全体で集まれば、多少何かできるような気もしないでもない。

◎中地区を盛り上げることがあればいい。

◎交流が持てるような何かをしておけば、ちょっとしたトラブルもなくなってくる気がする。

◎以前は運動会とかいろいろやっていた。

◎ソフトボールや、バレーボール。

◎公民館に賞状がいっぱい飾ってある。今はそういうのは全くない。

◎何度も言うけど、やっぱり自分たちが楽しんじゃって、それで終わりで、下の世代につないでいく努力をしなかった。多分、つなぎが甘い。

◎農家の若い世代は4Hクラブがある。

◎4Hは、いろんな地区の集まりだから、毎年、40人くらいの人数になる。

◎事務局がしっかりしていれば、途絶えたりしないで、続いていく。

◎何かの団体に所属するのが苦手だったり、め

んどくさいと思うような人は多い。

◎声かけても反応が薄かったり。

◎下を育てていくというのがやっぱり課題かな。自分のところも、いろんな環境や関係を親父に繋いでもらったから、自分も息子に繋いでいこうと思っているが。

◎中地区の環境で繋いでいきたいものというか、いいところは、やっぱり巴波川だな。

◎あとは、今の田んぼの風景が維持できればいいと思う。農地・水とかで、農家でない人も出てきて、時給を払って草刈りとか堀ざらいとかやってくれるけど、そういう活動は俺はすごく助かると思う。結構人が集まるから。

◎生き物調査やると、子どもが喜ぶ。

◎みんな川の中に入って、魚とって。

◎きゃあきゃあやりながら喜んでいる。だから、これは続けてやらなくてはまずいなとも思ってる。

◎各地区で厳しければ、中地区全体でやったって構わないと思う。

◎ここはとりあえずきれいな水田が、美田地区と言うんだから。きれいになってもらいたい、ずっといい景色のままで。

◎田んぼがきれいに維持ができれば、それが一番素晴らしい。

◎田植えしたばかりの田んぼは本当にきれいだ。荒れ地や耕作放棄地を作らないようにしたいが・・・。

◎何しろ手が足りないから。

◎地区によっては、畦畔は除草剤を使っては駄目というところもある。

◎草の根がなくなると土が崩れて石が出ちゃう。そうすると畦畔が崩れてしまう。

◎除草剤使えなかったら、本当に人手がいる。

◎中地区は本当に地元の人で数えるぐらいしかないのに、それで景観はどうするっていわれても難しい。だから、みんなでやっぱり考えてもらわないと。

3 | 農業者の方々（2）

参加者：中地区内で営農されているの方々。計4名

実施：2024年5月20日 18時～19時30分

場所：中公民館（うずま館）

1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり

◎今は専業農家で、集落営農組合に参加して米と麦を作っている。以前は勤めていた時期もあるし、個人でやっていた時期もある。普段の生活圏として、よく行くのが、立木のホームセンターで、農業で使うものや「農地・水」の活動で使うものを買いに行っている。時々、小山地区の東城南辺りに行くこともある。

◎地域との関わりでいえば、1年間、自治会長をやってきて、今は集落営農の組合長や農協の理事をやっている。そういう役職も、なかなか「やります」という人がいなくて、任期が伸びてしまう。20代から父親と一緒に兼業農家でずっと農業をやってきたが、40歳くらいから自分だけで兼業農家でやってきて、65歳で会社を定年で辞めて、それから農業だけ。米や麦だけでなんとかやっている。

◎生活圏は、やはり立木あたり。家族は大平のスーパーなどへもよく行っている。

◎今日の参加の皆さんと同じ営農集団と一緒に米と麦をやっている。機械などを共同で使っているの、そういった経費は少なくなるように、うまく使っている。他に農地・水、多面的機能支払の事務局をやっていて、地域の環境保全、草刈り、あとは農業関係の水路の環境整備とか、そんなものをみんなでやっている。

◎家の農業の他に八百屋さんと一緒に農業法人を作り、大谷地区で畑を借りて、そこで今、ネギを作っている。

◎生活圏としては、大平のスーパー、地元の肥料屋さん、立木のホームセンターなど、近場で買い物をしている。

◎家族で、小さい面積で米と麦を作っている。息子はいるが後は継がないと言っている。若い頃は、地元から通えるところを条件に考えて栃木市の会社に勤めて兼業でやっていた。

出張で海外に行っている、5月の大型連休は休みになる。それで私費でいったん帰国して田植えをして、また出張先に戻って・・・ということもしていた。勤めていた頃は忙しかったので地元との関わりが薄かったが定年退職してから、農協の理事なども含めて、地域の役職など頼まれてやるようになっていく。

◎地域の堰の担当にもなっている。栃木市の方で大雨になったりすると水害を避けるために、堰を落とす必要がある。雷などで雨が降っているときも合羽を着て、堰を落としに行っている。

◎米以外に野菜も作るが、農協のニラ部会のメンバーと一緒にニラを作っていた時期もある。去年は自治会長の役も回ってきて手が回らず作れなかった。妻と子どもは勤めに出ているので、時間が空いた時に農作業を手伝ってもらう。農業だけでは収益的に広げられないし、それであれば、勤めを続けてもらった方が良く考えて、農業は、基本は一人でやっている。

2：人口減少と中地区の変化

集落営農組合

◎組合は、10年近く前に20軒くらいでつくった。今は、10軒。徐々に減ってきている。そういうことなので、1人で耕作する面積は逆に増えている。田んぼのほうですが。人数としてはそういう形ですね。

生き物調査

◎うちの地区は前はやっていましたが、コロナ

くらいからやらなくなった。

◎コロナもあったし、子どもの数もどんどん減ってきているから。

◎うちは去年、育成会の方からやりたいという声があったので再開した。生き物、魚のほうだけだが。夏休みの1週目に中地区は一斉清掃をやる。その後に生き物調査を定例化していて、8月の第1日曜にやっている。子どもたちも楽しそうに張り切ってやっていたので、今年も継続で。去年は小学生が10人いたが、今年は8人。二人が抜けて一人入って。

◎ちなみに今年の中小の新入生は14人だそうだ。

◎まあまあかな。

◎寒川3人。穂積8人。だからこの辺は、20年後、30年後と言っても・・・。

◎今の小学生の数は、自分たちの時代の1学年の人数よりも少ない。昔は1学年で80名、90名近くいたから。

◎ここの地域の30年後をどうのこうの考えようと言っても、子どもがいらないのでは難しいところがあると思う。

◎中地区で1年生が14名というのは、どのあたりで増えているのか。で

◎井岡は、24軒しかないが、案外、子どもはいる。

◎小袋のほうが世帯数は多いけど、子どもは少ない。

◎ということは、若い世帯が小袋にはあまりいない。そこにいない。

◎井岡などは、若い世代が、建物は別としても、同じ敷地の中で親世代と一緒に暮らしているということだろう。

◎そういう世帯が増えれば一番いいと思う。

地域のよりどころ、小学校と公民館

◎子どもの人数が減ったとしても、やっぱり小学校って大事なんだと思う。小学校と、あと、

ここの公民館。小学校とか公民館とかがなくなってしまうと、集まるところがやはりなくなってしまう。

◎よりどころだから、残すべきだ。

◎公民館の統合もあるという話も聞いたことがあるが……。まだはっきりはしていないのだと思う。

◎統合で地区から離れちゃうと、公民館に行くにも簡単には行けない。年配者になれば免許はないし、送ってもらわなくてはならなくなってしまうかもしれないから。それを考えるとやはり近場のほうがいい。

◎ここに残してもらいたい。豊田あたりに、または美田地区の中間あたりにコミュニティセンターを作るといふ、そういうことになるかもしれないが、そうなったとしてもやはり、ここの地元の公民館は必要。ここに常駐する人がいて、いろいろな話を聞いてもらったり、一緒に相談に乗ってもらったり……。それがいいと思う。

医療機関や買い物できる環境の不足

◎この地区に唯一残っていた個人医院が（R6年の）6月いっぱいではなくなるという話を聞いた。内科と皮膚科で、先生がもう高齢なので。

◎周辺の病院に行ける環境の人はいいかもしれないが、地元の病院を使うのはみんな高齢者だから、実際に無くなったら困ると思う。ああいふ個人の医院が地域になくなったとしたら、市のほうで何か策を考えてもらって、特別な体制を作って欲しい。常駐は無理だったら週に1回ぐらいは、ここの公民館みたいなところを利用してここに来てもらって。週に1回とか、そういう体制は無理だろうか。

◎やはり設備がないと……。

◎病気のことから、本当は、地元で毎日診てもらえるような対応が必要かと思う。

◎医療もそうだけど、買い物も不便。自分たち

は車で、親も連れて近場で買い物できるが、そういう子どもたちが近くに住んでいないとか、高齢者だけの世帯とかは生活は厳しい。今、社協で、送迎の支援をするような「だけボラ」という体制を試みでやっている状態ですけど。

◎いいことだと思うが、運営するボランティアに、地元でもそれに手を挙げてくれる人を多く集めるのは難しいと思う。長く継続させるのは、前からのいろいろな、市からも委託された業務とかもあると思うので、地元でこなして継続させるのが難しくなっているのかも。

◎ボランティア側も完全にボランティアではなく、手間賃くらいは出ると良い。

◎1回につき、いくらだか出る仕組みかもしれない。

◎今は、65歳まで勤められるし、自分の生活が苦しければ会社が認めてくれれば70歳まで勤める人もいるだろう。退職して余裕がある人がやってくれる可能性はあるが、70歳になって退職しても、それからのボランティアはきついかもしれない。

地域活動の担い手について

◎いろんな活動をやれる人、やってくれる人は限られてくるから、なんでも兼務になってしまう。

◎根本的にそこを変えないといけない。地元でいろんな地域の活動を数人でやっているとしても、余裕ある生活ができる状況を中地区全体で作らねばならないのが、一番理想なのではないかな。

◎外に通勤している人も時間のやりくりは難しいのと、中地区は農業者が多いので、農業やりながら、いろんな役をやると、それもまた難しい。

◎自営業はやってられなくなる。

◎自治会長も、それに連合会の会長などまでやると、仕事が多くて、なかなか他にもという気持ちにならないと思う。

◎確かに、去年自治会長をさせてもらって、そんなにたいしたことをやっているわけではないが・・・、かなり時間を拘束されて、自分の時間が相当削られる。

◎会議にしても丸一日使っているわけではなく、1時間とか2時間とかだが、それがあることで、その前後の作業にしわ寄せが来るから、今日は会議があるから、これはできない、などとなってしまう。

◎下の年代、50代とか60代前半くらいまではドライな考え方の人が多いように思う。来期の自治会の役職を頼みに行くと、なかなか受けてもらえないから、非常に骨を折る。

◎変則勤務で夜勤やっている人もいて「ちょっと無理です」と断られたらそれ以上は頼めない。

◎やれる人が限られるから、2回目をやったり、偏ってしまう。後継者がいないと、引き受けてくれる人が現れるまで辛抱して少し延長させることになったりもする。

◎あと、消防の問題も同じ。

◎消防団員も減ってきている。うちの自治会でも年齢的にそろそろ卒業という人が、あと3年ぐらいはやると言ってくれたので安心したが、本当に人がいない。

◎後がないから、なかなか卒業できない。

◎今やっている人は何年やってる？ 7、8年は続けているのではないかな。

◎どこでもみんなそういうふうだ。誰かカバーしてくれている人が少しでもいるから、なんとか現状は保っている。消防とか民生委員とか「俺はできるから、誰もいなければあと1期やっちゃおう」とか、そういう人がいてくれるから、地域はなんとか回っている。なんとか形だけは作れているという状態。いろいろとやってくれている人には、申し訳ないが。

農業収益の問題と後継ぎについて

◎集落営農でも若手は少ない。うちの方では、イチゴをやっている40代後半の人、その次は50代半ば。

◎イチゴや野菜で後を継いでいる人はいるが、米麦ではほとんどいないのではないかな。

◎米麦だと一町や二町では生活できない。イチゴなど収益性が高い物でうまくやっていれば、勤めに出るより遥かに良い。そうすると、子どもたちが一緒にやって、継いでくれる。

◎中地区以外の他の地区全部を見ても、施設園芸は後継ぎがいる。米麦をやっている人にはいない。

◎みんな米だけでは食っていけないからそういう方向性に変えている。

◎集落営農の人でも、やはり80ぐらいの人はメンバーにはいるが、動くことはできないのでその分を我々の世代がやっている。自分たちができなくなったら、そういう田んぼはどうなることか・・・。

◎10年後は、もう地元の人は本当に数人だろう。中地区でやっている人はそんなにいなくなってしまう。

◎だから30年後と言われても、どうなるのか全然分らない。

マツヌマ◎30年後はどれだけ人がいるのか。

◎テレビなどでいろいろな農家が紹介される時があるが、例えばメロン栽培だと、それで成功した人の家がメロン御殿とか言われるが、イチゴ御殿というのは聞いたことが無い。番組では、栃木県の鹿沼あたりのニラも出てきたけど、そうは儲からなそうだ。悪いけど。

◎御殿までは行かないとは言え、この辺りではやはりイチゴだ。収益性が違う。

◎ただ、イチゴは結局、家族経営になってしまいう。親夫婦、子ども夫婦で、4人いればかなり回せているみたいだが、それでいっぱいいいいだ。

◎たまたま、まだ若い人で、嫁にきてやってくれている人が何人かいるから、まだなんとかなっているようだ。

◎若夫婦がいないと無理だ。

◎中地区でも新規就農の例がある。イチゴ農家の娘さんが結婚して、その結婚相手が勤めは辞めてイチゴをやりたいと。米なんかは全然やらない。ハウスを作ってもらってやっている。

◎最近ではトマト。設備投資がすごい。それなりに売り上げも上がってくるのではないかな。

◎昔はビニルハウスだったけど、トマトを大きくやっているところは、今は立派な設備だ。

◎トマトは今、種類が多い。野菜よりもフルーツに近いものもある。

◎トマトは収益がいいということでやる人が増えた。しかも安定している。ただ今は設備投資が何千万と、すごくお金がかかっているようだ。

行政の役割、行政に期待することについて

◎米でも多少収益性を上げる取組みがあるが、今のじいちゃん、ばあちゃんじゃそんなのは全然無理。

◎自分で販売網を作るというのは大変だから。

◎第六次産業をやっている人のように、自分で梱包して自分で販売するぐらいのことをしないと、収益はあげられない・・・。

◎米に関しては、やはり政治というか、特に国が変わらないと状況はよくならない。

◎言うことがコロコロ変わり、振り回されてきた。

◎施策が決まっても2、3年後、5年後にまたすぐ変わってしまう。こちらもまた変えなくてはならない。

◎国の政策が変わるとは言っても、結局、根本的なところは直さないというのがあって感じる。結局、それは何故かという、これは聞いた話だが、役人は、要するに先輩たちがやった

政策に対して、それを変更するのは、その先輩たちに対して失礼に当たると考えているそうだ。

◎確かに、日本人はそういうところがある。

◎だけど、それでは改善されないし、伸びていかない。

◎国も問題だが、国というよりも、私は、市が・・・、市役所の人も大変になっちゃうかもしれないが、国の方針の良くない部分を市が考えて必要なこともやってくれたら良いと思う。国の方針の通りにやっても、それだけではうまくいかないと思う。だから、市独自で、例えば販売所とか、何かそう言うところまで掘り下げて、新しいことをやっていかないと、特に、米作りは立ち行かなくなる。

◎自分たちの努力だけでどうこうできる状況ではない。この間の懇親会的时候にも市に言ったのだが、どっちにしても根本的には、国とか市とか政治が動かないときに絶対によくない。

◎そこが何もやらないのでは、いくら下のほうで、活性化しようだの生活を安定させようだの、農業をもっと活発にと言ったって、全然そうならない。もう、そこに農業を担う人がいないから。

◎小山は平場だが、山間地の過疎地と似たような状況になってきている、農業では。

◎農協という組織も、改善できるところはいろいろあると思うが、全農という大きな組織につながっているから難しい面もあるだろう。

◎一番いいところは、農協はできたものは全部買ってくれる。

◎それをやらなくなってしまったら本当に、さらに農家もおかしくなってしまう。

◎農協の役割として、そこは守ってほしい。それをやらなかったら、米を作っている人はもうみんな辞めていってしまう。

米づくり、昔と今の変化

◎このあたりで、米はやめて収益が高い作物に変えましようと言っても、なかなかできるものではない。

◎まず高齢化していると無理だし、野菜は収穫期などに人手がいる。だから、米麦で食っているだけの状況にしていけないといけないのだが・・・。手間がかかっている割には価格が低い。

◎昭和 30 年代だったら、米だけで食っていた。

◎1 町とは言わないけど、2 町ぐらいあれば食っていた。

◎確かにそうだ。80 歳代の人たちが若い時代の、小山の東と、こっちの西のことを比べたら、東の方はあまり高校へも行けなかったようだが、こっちの西の方は、農業高校へ行っている人が結構多かった。昔は、こっちの米作りの地域の方が暮らしが成り立っていた。

◎昔は勤めに行くより農業をやっていたほうがよかった。

◎例えば結婚するとなると、昔は土地があったほうにお嫁に行ったそうだが、いつからそうになったかわからないが、今は土地を持っていない方に嫁ぐのが良いと考える時代だそうだ。

◎結局、田んぼがない方が発展した。

◎田んぼは残そうという国の政策があったので。

◎残してくれたのはいいが、やる人たちが厳しい状況になって、みんな撤退している。その歪みに何か手を加えなくてはならないはずなのだが、締め付けばかりで、一向に良くならない。

◎でも、良い可能性としては、この辺でできているものは、結構なんでもおいしい。群馬から来た人が、小山の農産物は美味しいと言っていた。

◎土地はいいと思う。先ほどの話ではないが東

のほうより土地は肥えていると思う。野菜は出来ないが。

◎大昔からこの辺は田んぼしかなかったという話で、江戸時代も米を作っていたと・・・。

（風景社より江戸時代の土地利用図を広げて低地、集落微高地などの分布を説明）

◎湿地とかが広がっていた。

◎巴波川からの湧き水もあった。

◎少し掘ると水が出る。ため池にするところも 2 メートル以上掘ると水が湧いてくる。

◎いろんな条件が良くて昔から米とかを作っていたが、昔は、巴波川を利用しての商売でも栄えた。栃木と江戸との間で、巴波川を使って商品を舟で運んでいた時代、それで中地区は栄えた。今はそんな栃木からの恩恵はほとんど無いが・・・。

風景社より質問：飼料米の作付けは増えていますか？

◎随分と増えている。正確にはわからないが、半分以上が飼料米になっているのではないかな。補助金が出るので。

◎うちは家族で食べる分と親戚などに配る縁故米以外は、全部飼料米で作っていた。

◎半分以上は飼料米に切り変えていた。主食米よりは飼料米の方が手がかからないのと補助金が出るから、利益が上がる。

◎その政策がだんだん変わってきて、また補助金を出さないという話になってきて、また若干だけど飼料米を減らす人も出てきている。

◎主食米の値段が少し上がり、飼料米は助成金下がったから。

◎本当に 3 年くらいで、コロコロと政策が変わる。

◎もともと飼料米の始まりというのは、いわゆる減反を、例えば 3 割、4 割減反というのを無くしても良い、その代わりに、ということ。

◎以前は、この辺りだと大豆を作っていたのだが・・・。

◎今、栃木県の場合、推奨されているのが「と

ちぎの星」。飼料米と主食米と、両方に使える
ということで。粒も結構大きくておいしい。

◎とちぎの星もコシヒカリも作っているが、人
間が食べるものと同じものを家畜の飼料に使う
というのはどうなのかという意見もある。

3：これからの課題

米作りについて

◎それが今度は「夢あおば」という品種になる
が、例えば茎が太いし、コンバインもかなり傷
みやすい。農家としては作りにくい。

◎要は飼料米を専用品種に切り替えてもらいた
いということ。切り替えない場合には、助成金
が3年で毎年下がっていきますよという話にな
っている。

◎5000 円ずつ下がる。

◎今年と来年と再来年までが決まっているよう
だ。それが7万5000 円になってしまう。

◎助成して飼料米を作ってくれというのも、30
年後にはないと思う。

◎7万5000 円では本当に赤字になってしまう。

◎そうすると、もう農家はみんな撤退して、本
当に大口農家の人だけが残る。大きくやっている
人たちは何人かしかいない。

◎中地区だけではなく美田地区で考えるとどう
なのか。設備も揃えて大規模にやっている農家
に後継者がいるのかどうか・・・。

◎自分たちで食べる分、親戚とかが食べる分だ
けをつくっている人も、機械が壊れた時点で、
米作りは辞める。

◎小さくやっている人はいなくなってしまう。

◎人がいなくなると、水路などの地域の草刈り
とかをやる人もいなくなる。

◎荒れ地が増える。

◎これからどんどん環境が悪くなる。

◎だから、本当に、そうならないようにしない
と。そうなる前に、地元でなんとかしていかな

いと。

◎手遅れになってからではダメで、そうなる前
に着手しなくては駄目だ。

◎地元でそういう動ける人たちを育てていかな
いといけない。自分たちもそうだが、単純に後
継者と言ってしまうが、これはものすごく難し
いテーマ。

◎まずは、農業が楽で金かからなくて、そして
収益が上がるようなものにしないとイケない。

◎それから、農業とは切り離して言うと、若い
人たちにここに住んでもらうには、どうすれば
良いかも考えないとイケない。やはり勤めると
ころで、工業団地なのか商業施設なのか、はた
またレクリエーションなどのサービス部門など
が近くにあればと思う。無理なことかもしれないが。

◎何十年か前に市民病院をここへ移そうという
話があった。本当がどうかはわからないが、そ
のくらいのことをやらないと、この地区は駄目
かもしれない。

◎それに国も変わらないと。過疎地の農家は、
振られて翻弄される。もう少し法律などを緩和
してもらわないと。

◎過疎地は潰しても良いという考え方だ。

◎自分の有利なことだけをやっている人が多い。

◎広い目で見て農業にテコ入れする政治家が出
てこないと・・・。

自給率の問題

◎それに、少し前は小麦が外国から入ってこな
いと騒いでいたが、自給率が低いという問題が
ある。

◎果物とかも入ってこないし、オレンジジュ
ースとかはもう全然メーカーが作らなくなっ
た。

◎多くの食べ物を外国に依存しているから、戦
争だとか、いろいろなことで日本に入ってこな

くなったら困るはずなのに、普段の時から、もっと自給率を上げようとかもっと作れという話にはなかなかならない。

◎一時、冷夏で米ができなくて、タイ米を食べろということもあった。なんて話があれば。

◎気候の変化もあるし、またそうならないとは言いきれない。そうなってから米がないと大騒ぎしても後の祭りだから。

◎去年の夏だって猛暑で、一等米が出なかった。

◎それでまた暑ければ、病気が出たりする。

後継者育成について

◎何が起きるか、こればかりはわからない。長年、米を作っているけど、毎年何か問題が起きる。なんでこんなに失敗するんだろう・・・ということになる。

◎毎年1年生だから、毎年、勉強だ。

◎今、67歳。米をあと10回作ったら75歳。たったの10回で。1年に1回だから。10年やれば10年選手でしょという考え方があるかもしれないが、10回しか経験できない。これではうまくならない。プロにはなれない。

◎なるべく早く後継者を育てたい。専業でやれとは言えなくても、ある程度は自力でやってもらえるように。

◎最初からやれと言っても誰もできない。機械の扱いとかはできるかもしれないが、その前の段取りとは、経験を積まないとできないものだ。

◎3年か5年は一緒についてやらないと。教えられるのは、3年で3回。5年で5回しかない。

◎育成は、市とか農協とかも動いてくれているが、「小山市に住んで、こういう農業をやりたい」という人がいれば、家を安く貸すとか、住むところの世話もした方がいい。各地区で空き家も結構出ているわけだから。

◎空き家対策と新規就農者の誘致は、一緒にや

った方がいい。

◎あとは、機械や設備などはすぐには買えないから貸し出しをするとか。その辺は費用が高いと、米を作ってもみんなそっちにお金を持っていかれて生活できない。最初の数年間は助成してあげることも必要だ。そういう制度が作れると良いと思う。

◎空き家をあっせんしてくれるようなものがあるといい。イチゴの里は、今、研修生を募集してやっている。研修が終わったら自分で畑を借りてイチゴ栽培を立ちあげるという仕組み。

今、何人かやっている。

◎民間がそういうふうに行っているんだから、それを今度は行政でやる。

◎行政だけでやるのは難しいと思うので農協も民間も一緒にやった方がいい。

◎本当は集落営農みたいところに研修生が入れば一番いいのかもしれない。

◎確かに、今、集落営農はどんどん衰退してしまっているから、そこにテコ入れするのも必要だ。

◎中心になってやってきた人たちも75歳くらいになると、体力的にもなかなかできなくなっている。

◎本当はその集落営農みたいところに若い人を雇って、雇った人件費ぐらいの補助が出れば若い人の勉強にもなる。

◎組織体があるんだから、そっちのがいい。新しい組織を興すよりも、そういうのをまた復活させるといって、ちょっとやり方をテコ入れして変えて。

◎そうすれば新規就農の人も、いきなり自分でやれということも無理だから、集落営農の中で働けば、いろいろ覚えていけるのではないかな。

なつみずたんぼと渡り鳥

◎なんでも市がやるというのではなくて、住民に補助金を出すという形で協力してもらえとい

い。

◎なつみずたんぼも小山市だけの制度かな。1反歩 7500 円出る。

◎あれは効果があるのかどうか。

◎ただ、アオサギとかシラサギとか、それはかなり来る。

◎なつみずたんぼのところに、すごく珍しい鳥が来ると話題にもなる。小山はそういうところも力を入れていると。

◎田んぼの写真を撮りに来る人がいる。

風景社より：環境省の日本で 100 の重要な湿地の一つに入っていること、シベリアから渡ってくるシギ・チドリの仲間の重要な休憩拠点になっていること、農業が物質循環などを支えていることなどを説明

◎ああ、確かに。田んぼを作るとそういう風にも役に立つ。

風景社・廣瀬より：鹿沼の自然観察会の鳥に詳しい鈴木さんという方と一緒に現地調査をしたが面白かった。皆さんが耕したばかりの土塊がボコボコしている状態が、ムナグロという鳥が好きだったり。さらさらの状態に平滑に耕された状態を、ツバメチドリというのが好きだったり。皆さんが農業のいろいろな段階、農地のいろいろな状態を作っている、そこを鳥が選んで利用しているということで、そこで共生が起きている。ここの農業のやり方でいろいろな鳥と共存しているんだということが分かった。本当は、夏は水を落としてしまうのが普通なので、やはり水場があることが貴重だ。

◎だから少し補助のお金が少し高いわけだ。普通にやっているより。

◎鳥の種類も変わってきた。

◎あんなに来ると思わなかった。

◎アマサギは見なくなった。

◎アオサギは増えた。

◎これは余談だが、なつみずたんぼはいい思い出がない。隣がなつみずたんぼで水を張ってい

るところをカモが優雅に泳いでいる。子どもが生まれて、子どもと泳いでいる。米ができると、隣のなつみずたんぼから、こっちの田んぼに寄ってきて、カモが端っこだけパクパク。実って穂が垂れたところを、端っこだけみんな食べられてしまった。

◎それは嫌な思い出だ。

◎でもまあ、大したことはないが。

◎麦畑の場合は、スズメに食べられる。

4 | 子育て世代の方々

参加者：中地区内で子育て中の方々。計5名（2名が地区外から結婚で中地区へ移り住んだ方。3名が中地区で生まれ育った方）＋都合が合わず書面でコメントを提出して下さった方1名

実施：2024年5月20日 18時～19時30分

場所：中公民館（うずま館）

1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏

◎宇都宮に住んでいたが、結婚して中地区に来て夫の実家に同居という形で10年ぐらいになる。今のところは育成会の活動だけをやっている。生活圏としては、買い物はだいたい大平のお店や、あとは小山のまちなかへ。休みの日は、まだ子どもが小さいので、公園に行くことが多い。中地区にはあまり大きい公園がないので、大平の公園や、50号線が近いので佐野へ行く。地元の宇都宮へ行くことも。

◎中地区で生まれ育って、ずっと住んでいる。仕事は介護の仕事で古河市内へ。育成会とPTAの学年委員をやっている。普段の買い物は大平か間々田で、子どもが休みの時は、出かけるのが結構好きなので、車でどこでも行く。長野や静岡にも車で出かけて、一番遠いところでは、名古屋まで。地元や栃木県内だけでなく、できるだけいろいろなところに連れて行ってあげたいという気持ちがある。地域の色や、地域によって違う方言や、いろんなことを感じて欲しい。

◎中地区で生まれ育ったが、学生のときに県外に出て、就職は県北だったので、それからUターンした。仕事は栃木市内の障害者施設の支援員をしている。50号のすぐそばにあるので、中地区からも15分で行ける距離。地域での活動は育成会だけで、生活圏はやはり大平、栃木方面

が多い。

◎もともと桑地区に住んでいて、中学生のときに転校して中地区へ。今の仕事は医療従事者として佐野市へ通勤している。地域活動は子ども会の役員や団体の理事などやっている。生活圏は、大平、栃木、佐野。宇都宮市内の高校に通っていたので、宇都宮に行きくこともあり、子どもの希望で県外に出かけることもある。果物が好きな子どもなので、山形にサクランボ狩りツアーなど。そういう団体でのツアーに子供と参加するのも、時間を守ったり団体で行動することなどを教える機会だと思っている。

◎栃木市の大平が実家で、結婚して中地区に来て、夫の家に同居している。栃木市内の介護施設に勤務している。フルタイム勤務なので、家族に助けってもらいながら子育てもしている。普段の生活圏としては、実家がある大平や間々田。子どもと出かけるのは公園がメインで、中地区内では下河原田の公園。買い物ついでに間々田の美しが丘の公園、大平の運動公園などもよく行く。

◎大学進学と同時に地元を離れて、卒業後は都内の会社に勤務。数年前にUターンして地元の会社に勤めている。生活圏は小山市内。

2：学童保育について

◎うちは、私が仕事から帰ってくるまで1人で留守番させている。1年生のときだけ学童をお願いしたが、それ以降はもう1人で留守番。

◎もともと、中地区は、おじいちゃんおばあちゃんが見てくれる家が多いから学童保育のニーズが少ないのか……。小学生を対象とした学童が無い。認定こども園でも小学生を見てくれるが、幼児と一緒になので、子どもも嫌がってしまう。

◎小学校から離れていて、送迎がないので、子どもが自分で2キロくらいを歩いて行かないと

いけない。それだったら、家に戻って一人ででも留守番した方が良い。親が小学校から、預かってくれるところまで車で送っていた人もいた。でもそれからまた仕事に戻ったりしないといけない。

◎職場（佐野市）内に保育所があるので、春休みや夏休みは一緒に行って、そこに預けている。

◎私も職場（古河市）にあって、6年生まで見てくれる。料金も安いので、長い休みの時はそこに預けている。ただ、近所の友だちは一緒ではないのでつまらないと思うこともあるみたい。寒川小に通っている友達が、夏休みは、中地区の学童（認定子ども園）に来ることもあるので、その時はそちらに預けたり、使い分けることもある。

◎学童に預けたくて、去年とかずっと学童のことを調べていた。中小学校の中に学童を設置してもらえないかと言うことも、市に相談していた。市の見解は、認定こども園の学童があるからと言うことと、2キロの距離は、歩いていけない範囲ではないと言うことだった。でも、子どもの2キロは遠い。

◎私たちが子どもの頃は、近所のおじいちゃん、おばあちゃんのうちに普通に遊びに行つて、繋がりがあった。おじいちゃん、おばあちゃんは孫とかひ孫ぐらいの子どもたちが来るとうれしいから、お菓子を用意していたり。そういうのが普通にあったけど、今はそういうのがないから、近所の人を頼るのも難しい。

◎今は、おじいちゃんおばあちゃんも70歳すぎても外で働いている人も多いし。

◎近所付き合いでいえば、知らない人と話さないようにと言われると、子どもも挨拶とかもしないみたいで・・・。

◎そんな状況なので、結局は、母親は仕事を調整するしかなくなってくる。

◎きつと働きたくても働けないお母さんは多い

と思う。お子さんが2、3人もいるおたくは本当に大変だと思う。うちは子どもは1人だからなんとかやりくりできている。

◎今の時代、子どもがある程度育ったら、働きに出たいなというお母さんもたぶん多いと思う。物価高だし、子どもにお金がかかるのもこれからだから。安心して働きに出られるような環境は、本当に必要。

◎うちの地区は同級生は1人しかいないが、全学年を含めると10人弱はいる。なので、朝は8人ぐらいで歩いて行くので、帰りも少なくとも4、5人で歩いて帰ってくる。でも、これからの1年生、2年生は、どんどん子どもが少なくなっているので、そうすると1人で行って帰って来ないといけなくなる子供が増えてくる。やはり、放課後の問題はどうかしたほうがいいと思う。

◎パートで働くお母さんもきつと多いだろうし。そうすると、時間で収入が決まるから、放課後に安心して子どもを預かってくれるところがあるか無いかでは、大きく違う。

◎そういう環境でも、都市部との格差があるから、たぶんここに子どもがいないのだと思う。大谷地区や間々田地区なども、学童の空き待ちがすごいと聞いた。学童へ入りたくても人数が多すぎて入れず、優先家庭を決めるような審査のようなものがあるみたい。

◎間々田は学童でも子どもが多いから、子どもたちも楽しんでいると知り合いから聞いた。

◎子育てに関しては祖父母の協力が得やすいので助かるが、その一方で行政サービスは受けにくい。

◎子どもが学童を必要としていた時期は、祖母の送迎で別の学区の学童に通わせていた。そのうちに学童のスケジュールと仕事をしている祖母のスケジュールが合わなくなり、私自身が地元会社に転職して、学童への送迎をすることにした。学童ができて母親も働きやすくなると

転入者も増えるのではないか。

◎施設や設備など、学区による学習環境の格差が減ると良いと思う。

補足：小山市は、令和7年2月に、モデル事業として城南小学校と中小学校を対象に、放課後子ども教室と学童保育クラブの校内交流型事業を令和7年度に実施することを発表

3：田園部での子育て環境～昔と今の変化

変化の概況

◎昔に比べてイチゴ栽培のハウスが増えていると思う。

◎こっちに来てから、結構イチゴのハウスがあるので、イチゴの産地なんだと認識した。

◎イチゴの里に来るのに、大型バスがすごくよく通る。イチゴの里はできてから20年はたっているのかな。結婚してこちらに来た10年くらい前は、あまり見なかったが、最近

◎子どもの数は、すごく減った。今は子どもが全然いないじゃない。昔は、子どもが結構いたので、小学校の頃は同級生も登下校の班内に5、6人はいたから、帰り道は、みんなで遊びながら帰ってきた。缶蹴りしたりとか、用水路に足を入れながら帰ってきたり。今は、同じ方向の子どもが他にいないと、車で送り迎えするようになったから、歩いて帰ってくる子が、昔よりは余計に少ない。

◎昔は歩くのが当たり前だから、雨の日でも、カッパを着て普通に歩いて帰ってきていた。

◎習い事する子も増えました。習い事に間に合わないから、車で迎えに来るお母さんもきつと多いと思う。

◎学校から帰ったら、普通に遊びに行っていた。1年生でも、自転車に乗って友達のところに行ったり、公民館で遊んだり。

◎今は外で遊んでいる子なんていない。

◎公園が一応あるけど。

◎昔は、だいたい兄弟がいて上下関係なく遊んでいました。

◎年の差関係なく、みんな一緒に遊んでいた。

◎今は、人数も少ないから親も外に出すのがやはり不安。若い世代も共働きで夕方5時6時まで帰ってこない家が多くて、おじいちゃん、おばあちゃんばかりだから、子どもを外に出すのは少し心配。

◎今の中小学校が、3年生は13人。

◎1年が10人、2年生は14人。

◎その人数で、地区に1人か2人。

◎小袋は多くて、地区に4人。

◎今年の1年生は、たまたま多い。

◎同じ地区ではあるが、住んでいるところが離れていたりするので、一緒に集まって遊ぶとかはなかなかできない。

◎登校班が一緒でも、家はまるっきり遠かったりするので、結局、登校班の集合場所まで車で送ってくる人もいるくらい。だから、放課後の子どもたちは、なかなか一緒に遊べない。

◎登下校の際に一人になる距離が長いので、不安を感じる。車で送迎している。

住宅事情

◎子育て世帯が増えてほしいけど、この辺りは住宅を作るのも制限されているから・・・。

◎うちは夫の実家の敷地内に、農業で使っていた小屋をリフォームして住んでいる。土台、基礎はそのまま使って、上を作り替えて。

◎うちも、同じ敷地内ではあるけれど、建物は別という形で住んでいる。

◎近所でも蔵があったところに子ども夫婦の家を建てたり、農業を辞めた家が、農業機械を置いていた小屋を改修したりしている。

小規模校の特色と通学の状況

◎子育て世帯が増えてほしいとは思いますが、小学校などでは生徒数が多いのも考えてしま

う。少人数の学校には、先生が子どものことをよく見てくれるなど、いい点もある。

◎学校の先生も頑張ってくださっていて、子どもたちもなついているし信頼している。

◎1年生は特に幼稚園の延長みたいな感じで目が行き届く。

◎ここまでやってくれるんだ・・・と感じることもある。

◎担任や学年の先生だけではなく、全員の先生が生徒全員それぞれのことを見てくれる。

◎子どもの話からも、他の学年の先生の名前が結構出てくる。

◎「○○先生はね」「誰それ？」という感じで（笑）。

◎親も分からない。○○先生とか言われても。

◎もう薄暗くなってから、子どもと学校に寄る用事があったら行ったら、私は全然面識がない先生でも、暗い中、子どもの顔を見て「あ、○○だな」と分かってくれて、驚いたことがある。

◎子どもたちも、昼休みとかは、ほかの学年と縦割りで遊んだり活動したりするみたい。

◎今日は何年生と何々をするんだと言っている。

◎人数が少ないからこそ、工夫されているなどいうのを感じる。

◎小規模校で不安なことは、あまり無いけど、6年間、クラス替えがないまま終わってしまうので、波にもまれることなく6年間が過ぎてしまう。

◎子どもたちは、それが楽かもしれないけど、どうなのか・・・。社会に出るとなると、やはりいろいろな人と関わらなくちゃならない。最低限。そういうのを小さいうちから知ってほしいけど。クラス替えして、今まで違うクラスの子とどう接したらいいとか、そういうのも。上下関係もそうですけど、そういうのも分かってほしいが・・・。

◎私の学年から、中学校でも2クラスしかなか

ったので。その上の世代は3クラス、4クラスとかあったみたい。2クラスだと、仲良しのこと別れても必ず隣の教室に入るという安心感がある。本当に4クラスも5クラスもある学校は大変だろうなと思うが、それはそれで成長にもつながるかもしれない。

◎小学校での田植えや稲刈りの行事があることに、都内の友人からは「うちの子どもにも体験させたい」とよく言われる。

◎この辺りでは、小学生は歩きで、たまに親が来るまで送迎。でも、中学生は全員、自転車通学。余程学校に近いところに住んでいなければ。

◎田んぼの中のあまり広くない道をまっすぐ行くので、車と安全にすれ違えるのか、少し怖い。

◎用水路もあるので、落ちないかも心配。

◎中学の頃、薄暗い時間帯に自転車ごと落ちたことがある。落ちますよ（笑）。

◎道路の真横に水が流れていて、ガードレールも柵もなくてそのままだから。

◎子どもなんかは水が流れていれば興味があって覗き込むし、ましてや魚なんていると、そっちに集中しちゃうから、落ちそう。

◎場所によって結構大きな用水路があって、ガードレールがついたところもある。

◎朝、霧が出たり、もやが出たりすると見通し悪いから、ガードレールがあると安心。

学外での活動の状況

◎お稽古ごとというわけではないが、学校の野球クラブに入っている。

◎うちは小山ウエスト JFC というところに入っている。寒川、穂積、乙女、間々田、岩舟、豊田とかいろんな学区から来ている。最近は羽川、野木のあたりも来ている。練習は土日と火曜日と金曜日。シングルの家庭なので、祖父母に送り迎えをお願いしたり、あと、同じチーム

メイトのお母さん、お父さんが面倒見てくれて、送り迎えしてくれることもあって、助かっている。

◎うちは子どもの希望でダンスをやっているが、間々田まで通っている。幼稚園の時の友達で穂積小学校に通っている子が多く、そういう穂積小のお友達も一緒。また中学校で一緒になるので心強い。今、3年生で、学年13人のうち、女の子は5人しかいないので。

◎中地区でも、昔は、習字とかピアノとかの教室もあったが、今は、公文だけ。

◎子どもの頃は、地区内のそういうところに通っていて、子どもが多かったから、子ども同士で誘い合って行くから、親の送り迎えなんて必要がなかった。

◎そう、スイミングも自分で行っていた。

地区での親睦行事など

◎育成会の行事は、コロナ中はほぼ無かったが、今は去年から始めたクリスマス会がメインになっている。

◎中地区全体の行事として、公民館でゲームとか紙芝居とかをやっている。

◎育成会は小学生がいる家庭は100%加入して、自治会などによって違うが、中学生が参加しているところも。

◎中学生は会費の集金だけで、特に中学生対象にやることは、卒業の時に祝いの図書カードとかを渡すぐらい。

◎昔は、自治会と協力して合同で夏祭りをやっていた。

◎公民館？集落センターかな、肝試しをやったりしていた。と

◎子どもが多かった時代の育成会はすごかった。海にも行った。

◎親はついていかなくても、役員さんの引率でバスに乗って、遠足気分。水族館や東武動物公園にも連れて行ってもらった。夏休みのいい思

い出。私が子どもの頃は、子ども会の行事には、みんな参加するのが当たり前みたいな感じだった。今はそういうのがない。各家庭で出かけたりにすることのほうが増えているから。

◎肝試しはよく覚えている。上級生が会場を作ってくれて、下級生と上級生でペアになって真っ暗な中を進む。小さな会場だけど、それがすごく楽しかった。今でも記憶にある。

◎ラジオ体操もやっていた。

◎うちの地区は、まだやっている。

◎もうやめたところと、やっているところがあるのかな。

◎うちは夏休み最後の3日間だけ。そうすれば、早く起きルから、学校が始まることに慣らすために3日間だけやろうと言って、ずっとそれでやっている。

◎うちは逆に最初の5日間だけやっている。

◎前は、全部参加しないとお菓子をもらえなかった。

◎夏休みは、学校のプールが開放されていて、先生と地区のお母さんたちが交代で監視にしていた。

◎それも、最近は聞かない。コロナで無くなったかも。

放課後の遊び

◎水曜の一斉下校の日に、多分、誰かが「公民館で遊ぼう」と言い出して、みんなで集まっている。宿題を各自で終わらせて、近くの下泉公民館に集まって遊ぶ。月に2回ぐらい、そういう約束をして集まっている。

◎小さい場所だが、遊具が新しくなっていて、サッカーゴールも置いてある。

◎私たちの頃は、用水路とか川とか、どこでも遊んでいた。

◎魚とか草花とか取ったり。

◎ハンカチ流したりとか。

◎男女関係なく一緒に遊んで。女の子でも木登

りも普通にしてた。

地区の祭り

◎子どもの頃、下泉ではお祭りもあった。

◎上泉も。

◎神輿もあって、太鼓や笛や、お囃子のおじいちゃんたちもいた。

◎地区ごとにやっていたと思うけど、次の世代へ引き継がなかったから、もう終わってしまった。神輿も下泉公民館に眠っている。昔は、子どもたちがみんなで担いで回って、家を回っていた。毎年、当番があって、当番になった家では、オードブルとか用意して待っていてくれた。それをみんなで食べて、ジュース飲んでお菓子食べて、それで最後にまた下泉公民館に戻って来た。一人ずつ、お駄賃というか、結構なお小遣いをもらえた。

◎大川島もぎりぎりの状態で続いている。コロナもあって、今は大川島の神社で鳴ら巣だけ鳴らして、それで終わり。後を継ぐ人もいなさそうで・・・。

◎女子禁制とかあるのかな。

◎女子はいなくて男性ばかり。

◎神輿を止めて休憩しているときに、おじいちゃんたちが子どもたちに教えていた。太鼓は叩けば誰でも音が鳴るから面白いじゃない。お年寄り子どもと、触れ合う時間にもなっていた。

◎コロナの前だったか、初田に老人ホームに入っている中地区のおじいちゃんたちも来て、一緒にお話をやっていたこともある。

◎夏祭りとは言っても、子供が減っていることもあって、大人が集まってお酒を飲んでいるだけ、というところもある。

◎結婚した頃は、大晦日に下河原田神社でお酒が出たり、甘酒が配られたり、ちょっとした日用品が当たる福引があったり、露店が並んだりしていた。でも、コロナになってからはやって

いないと思う。

◎大晦日にみんな集まっていた。氏神様だから、挨拶に。

◎他には、地区の飲食店で思川商工会が8月に、夏祭りのイベントをやってくれている。焼き鳥が出たり、金魚すくいとか、お囃子とか、最後に田んぼで上げる打ち上げ花火も。

◎美田地区からたくさん来る。顔見知りが多く集まって、大人も子供も楽しんでいる。

人口減少や移動の問題

◎近所は、年配の男性で、独身で1人で住んでいると言う方が、結構多い。

◎お子さんがいる世帯でも、子どもはみんな社会人になると地区の外に出て行ってしまっている。祖父は、10年、20年もすると、まわりは誰も住んでいない状態になるのではないかとっている。更地になっている土地も増えてきている。

◎子どもたちの進路も中学までは決まっていますが、高校は、それぞれ。どこの高校に行くにしても、バスも無いし、駅まで自転車で行くとしても遠過ぎてあり得ない。やはりみんな親が送り迎えするしか無い。

◎駅は、間々田、栃木、小山のどこにも同じくらい遠い。ちょうど真ん中？ 自転車でどこも30分以上かかる。

◎この前テレビでやっていたが、栃木市は高校のことを考えても子育てしやすいという内容だった。工業高校も商業高校もあって・・・。小山は専門の高校も無いし、通学に不便だし。私は、子どもは県外に出したいと思うこともある。ここにとどまらないで、もっといろいろな人と関わってほしい。

◎中学校時代の部活も選択肢が本当に少なすぎる。

◎男の子の部活は、野球か陸上か。今年から陸上部が再開したと聞いたが、男子バスケも無く

なったしサッカーも無い。

◎女子のバスケット部はまだあると思う。あと、テニスと剣道かな。剣道は男子も。

◎スポーツが苦手な子は美術部とかパソコン部に入るしかない。選択肢が少ない。

◎バスも、イチゴの里や、道の駅まで。何年前はうちのほうまで来ていた。維持費が大変とかで廃止になってしまった。

◎結局、利用する人が少ないから。

◎バス停の位置なども問題あったと思う。おじいちゃん、おばあちゃんたちは、バス停まで歩くのが大変。バスしかないと分かっているけど利用しにくい。お金がかかっても、介護タクシーを頼んだほうが家まで来てくれるから楽だという人もいる。

◎デマンドバスも予約が必要なので、慣れないと使いにくいかも。

◎佐野市では、職場で聞いてみると、デマンドバスを利用している人が結構多い。栃木市は、巡回のふれあいバスというのが利用されている。

4：子どもたちの将来

◎自然環境は残してあげたいが、これから先は人口も減るので、宅地以外の土地の維持管理が難しくなってくると思う。森林を残したいが、近隣への影響もあるので、部分伐採などの管理も必要で維持管理の費用がかかる。子どもたちの代まで残せるかどうか・・・。

◎だんだん人は少なくなってしまうと思う。子どもたちには、やはり、ここにずっといて欲しいと言う気持ちより、外に出て、いろんなところを見て欲しい、経験を積んで欲しい、と言う気持ちがある。

◎私も同じように思う。ずっとここにいても・・・。

◎一回、地区の外に出て、いろんな経験をし

て、その上で、地元を選んで戻ってきてくれるのなら、それにこしたことはない。

◎私もそれがいいと思う。

◎どっちにしても、一回別の世界を見てほしいなと思う。

3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

中地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

回答数/回答率について（再掲）

回答数

- ・回答総数：415 件
- ・自治会による協力で回収：412 件
回収率 61.2% 母数 673
- ・インターネット回答：3 件

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 66% :272 名	女性 28% :117 名
---------------	---------------

その他 2 名 無記入 24 名 無効 0

-2 年代

70 代以上	44%	184 名	75%
60 代	31%	128 名	
50 代	16%	66 名	20%
40 代	4%	17 名	
30 代	1%	5 名	1%
20 代以下	0%	0 名	

無記入 15 名 無効 0 名

-3 世帯人数（回答数が多い順）

2 人世帯	32%	133 名
3 人世帯	28%	116 名
4 人以上世帯	20%	85 名
本人 1 人世帯	13%	54 名

無記入 27 名 無効 0 名

-4 職業（回答数が多い順）

無職	37%	155 名
会社員	20%	82 名
パート/アルバイト	11%	47 名
農業（専業）	8%	35 名
農業（兼業）	8%	34 名
自営業	7%	29 名
団体職員	2%	8 名
公務員	2%	7 名
学生	0%	0 名

その他 6 名、無記入 18 名 無効 7 名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

> 別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

-7 中地区との関わり～回答が多い順（選択肢から選ぶ方式）

無記入 22 名、無効 5 名

中地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。 | 152 名 (37%)

中地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。 | 63 名 (15%)

中地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。 | 28 名 (7%)

中地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った | 17 名 (4%)

小山市の他の地区で生まれ育ち、中地区に移り住んだ。 | 45 名 (11%)

栃木県内の他の市町で生まれ育ち、中地区に移り住んだ。 | 58 名 (14%)

栃木県外で生まれ育ち、中地区に移り住んだ。 | 26 名 (6%)

中地区
生まれ 63%

中地区以外の
県内から
移住 25%

県外から
移住 6%

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		6%	20%
栃木県内の他の市町で生まれた		14%	
小山市で 生まれた	他の地区	11%	74%
	中地区	63%	

●コメント欄の記述

中地区に他所から移り住んで来た人やUターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。(コメント回答 148 件)

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①実家との関係	66
②結婚に関する理由で (結婚を機に実家に) など含む	62
③仕事の都合で	21

* 複合的コメントもあり、①②③の内訳合計は総数 148 を超える

●中地区へUターンした人の記入コメントより

①実家との関係

◎親の介護 ◎長男なので ◎親の敷地に家を建てて ◎親の要請、など

②結婚に関する理由で

◎結婚した夫の家族と同居 ◎結婚相手の地元だから、など

③仕事の都合で

◎転職 ◎長期派遣や転勤から地元に戻った、など

1-2 集計結果より

他の田園部の地区と同じように、Uターンの理由は「実家との関係」に基づく回答が多く、地区外で生まれた女性においては「結婚を機に」という理由が多い結果となっています。前者においては、アンケートの自由記述やグループインタビューの内容などから、中地区にとどまる子ども世帯の条件として、実家の敷地内に新居を建てられる面積の余裕がある場合、改修して住居として使用できるような納屋などがある場合、また仕事先が通いやすい場所にあることが伺えました。

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

-1 仕事や学校へ通っている地域

-2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
中地区	107	栃木市	198
栃木市	47	小山地区（駅西）	85
小山地区（駅西）	29	小山地区（駅東）	53
小山地区（駅東）	25	栃木県内野木町以外	19
栃木県内野木町以外	18	中地区	9
間々田地区	12	間々田地区	2
宇都宮市	9	大谷北中部地区	2
桑地区	6	豊田地区	2
茨城県	6	野木町	2
大谷北中部地区	3	桑地区	1
東京都	3	生井地区	1
群馬県・千葉県	3	宇都宮市	1
生井地区	2	茨城県	1
野木町	2		
埼玉県	2		
穂積地区	1		
その他	4	その他	1

-1 無記入 136 無効 0

-2 無記入 33 無効 3

選択肢から2つを選ぶ

-3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域

-4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
栃木市	165	栃木市	122
小山地区（駅東）	155	栃木県内野木町以外	79
小山地区（駅西）	126	中地区	62
栃木県内野木町以外	58	小山地区（駅西）	59
宇都宮市	50	茨城県	36
中地区	26	群馬県・千葉県	34
東京都	26	小山地区（駅東）	24
茨城県	15	宇都宮市	18
埼玉県	14	生井地区	10
群馬県・千葉県	11	埼玉県	8
間々田地区	8	東京都	6
穂積地区	8	野木町	5
豊田地区	4	間々田地区	3
野木町	4	穂積地区	3
大谷北中部地区	2	桑地区	1
生井地区	2	大谷北中部地区	1
その他	13	その他	28

-3 無効 54 無効 3

-4 無効 135 無効 1

2-2 集計結果より

中地区では、普段の生活においても休日の行動においても、栃木市を生活圏としている人が多い。グループインタビューでは、車で10分程度の距離にある栃木市大平地区の商業施設を利用しているという声が多く聞かれた。

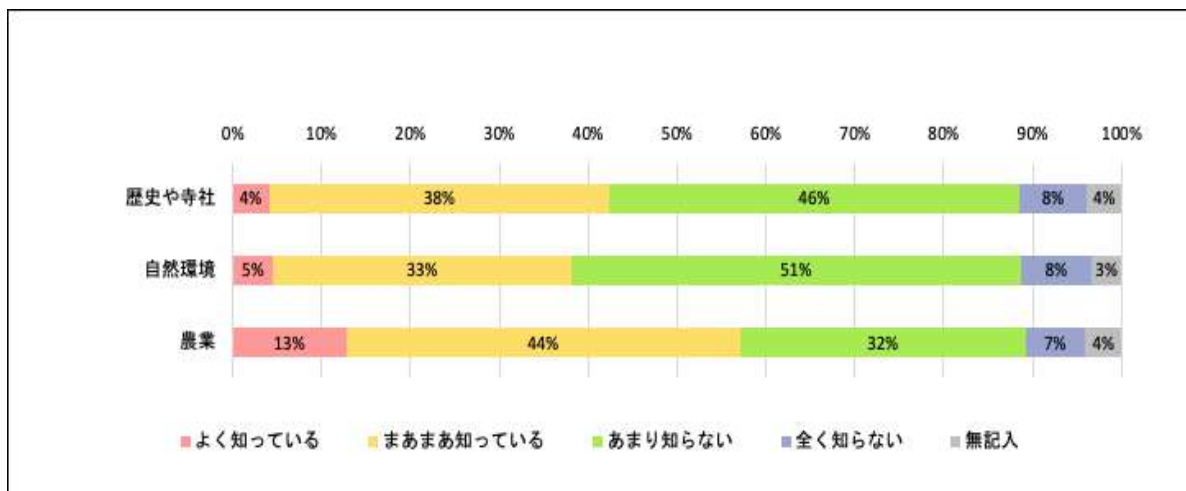
「休日の特別な買い物や会食」について訪ねた小問3では、栃木市、野木町以外の「県内の市町」を選択した人に、具体的な市町をコメント欄で上げてもらったが、県道67号でアクセスが良い佐野市（アウトレットモール）を挙げている人が最多の26名だった。小問4の「自然の中でリフレッシュやアウトドアスポーツ」の行き先は、那須町が13名で最多、次いで佐野市の12名であった。

3：中地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

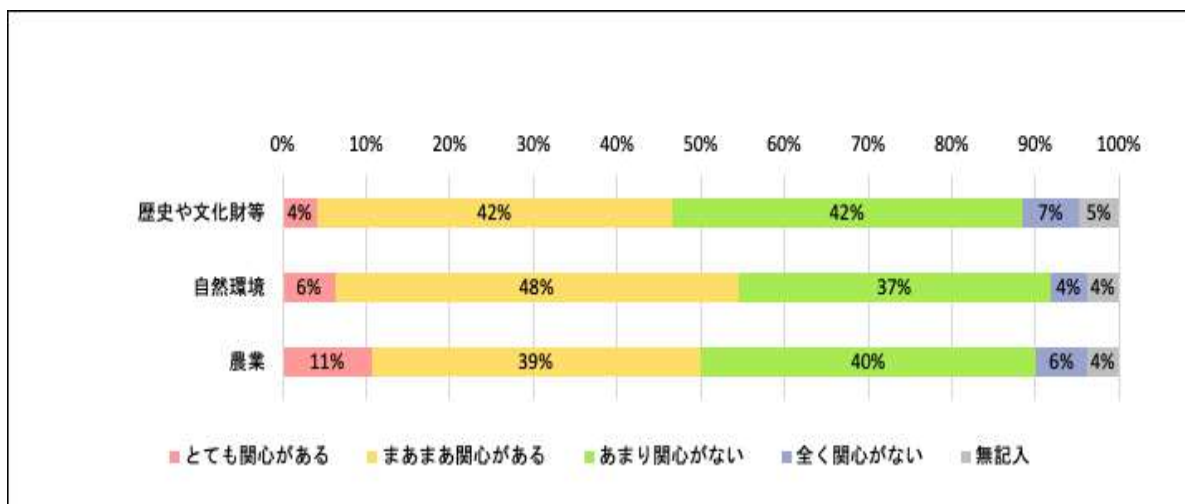
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
 (2)地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？
 (3)地区内の農業についてどのような地域でどのような農業が行われているか知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
 (2)地区に残る自然環境に関心がありますか？
 (3)地区の農業に関心がありますか？



●年代別の集計結果

* 年齢別回答人数が少ないため、%表記ではなく人数での記載とします。

(1)中地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	175 名		221 名		191 名		202 名	
	16 名	159 名	189 名	32 名	17 名	174 名	174 名	28 名
20/30 代	2 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名
40 代	0 名	4 名	12 名	1 名	0 名	11 名	6 名	0 名
50 代	1 名	20 名	39 名	5 名	2 名	25 名	32 名	6 名
60 代	2 名	49 名	63 名	13 名	4 名	53 名	58 名	11 名
70 代～	11 名	85 名	74 名	12 名	10 名	84 名	76 名	10 名

(2)中地区の公園、街路樹、平地林などについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	155 名		243 名		225 名		173 名	
	18 名	137 名	210 名	33 名	25 名	200 名	155 名	18 名
20/30 代	2 名	0 名	1 名	2 名	1 名	1 名	2 名	1 名
40 代	0 名	6 名	9 名	2 名	0 名	12 名	5 名	0 名
50 代	1 名	17 名	41 名	6 名	3 名	28 名	27 名	6 名
60 代	2 名	45 名	69 名	11 名	4 名	65 名	52 名	6 名
70 代～	13 名	69 名	90 名	12 名	17 名	94 名	69 名	5 名

(3)中地区の農業について (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	235 名		161 名		206 名		191 名	
	53 名	182 名	133 名	28 名	44 名	162 名	166 名	25 名
20/30 代	2 名	0 名	2 名	1 名	1 名	0 名	2 名	2 名
40 代	2 名	6 名	6 名	3 名	2 名	7 名	8 名	0 名
50 代	1 名	35 名	22 名	6 名	6 名	22 名	30 名	7 名
60 代	12 名	62 名	43 名	10 名	9 名	58 名	49 名	11 名
70 代～	36 名	79 名	60 名	8 名	26 名	75 名	77 名	5 名

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える中地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— 事前に自治会長の皆様への説明時にご相談して設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数・無記入などは不記載）

1 公共交通の不便さ	131
2 買い物の不便さ	128
3 農業の担い手、後継者不足	125
4 地域活動の担い手、後継者不足	100
5 医療機関の不足	98
6 人口減少	93
7 空き家・空き地の増加	92
8 台風・大雨による被害	50
9 昔からの風習	46
10 地域の集まりや寄り合い	45
11 地域でのコミュニケーションの不足	33
12 道路の不具合	31
13 祭りや伝統芸能の担い手、後継者不足	18

14 選択肢が少ない働く場	17
15 路上等のゴミとゴミ出しのマナーの悪さ	16
16 治安の悪化	13
17 子どもが外遊びできる場所の減少	13
18 選択肢が少ない教育環境	11
19 騒音など住環境への影響	10
20 交通渋滞	4
その他・無記入・無効は記載していない	

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 生活環境に関すること	33.2%
2 人口減少・担い手・後継者不足	31.3%
3 交通や移動に関すること	15.53%
4 地域コミュニティに関すること	11.5%
5 水害に関すること	4.7%
6 教育環境や就労に関すること	3.8%

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

30代 5名	40代 17名	50代 66名	60代 128名	70代以上 184名
2名が選択 ・地域の担い手不足 ・農業の担い手不足 ・働く場所の選択肢 ・買い物の不便さ	1 地域の担い手不足 1 農業の担い手不足 2 公共交通の不便さ 3 空き家・空き地 3 人口減少 4 買い物の不便さ	1 公共交通の不便さ 2 買い物の不便さ 3 医療機関の不足 4 地域の担い手不足 4 昔からの風習 4 人口減少 4 台風や大雨の被害 5 地域の集まり 6 農業の担い手不足 7 空き家・空き地 8 道路状況の悪さ	1 農業の担い手不足 2 地域の担い手不足 3 買い物の不便さ 3 公共交通の不便さ 4 医療機関の不足 5 人口減少 6 空き家・空き地 7 地域の集まり 8 昔からの風習	1 農業の担い手不足 1 買い物の不便さ 1 公共交通の不便さ 2 空き家・空き地 3 医療機関の不足 4 人口減少 5 地域の担い手不足 6 地域のコミュニケーション不足 7 台風や大雨の被害 8 昔からの風習

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

4-2 集計結果より

中地区での「解消したい困りごと」は、単独の項目としては、他の地区と同様に「公共交通の不便さ」が最多の結果となっている。しかし、ジャンル（領域）に分類して見てみると、「公共交通の不便さ・道路状況の不具合・渋滞」という「移動に関する利便性の低さ」より「生活の利便性の低さ」「人口減少に伴う地域の様々な活動の担い手不足」についての「不安」が上回っている。

以下に掲載する設問【4】の自由記述に寄せられたコメント（一部を抜粋して紹介）から、その詳細を把握していく必要がある。

--

(1) 生活の利便性の低さ

◎この地区は不便なことばかり ◎上下水道がないこと ◎東西に走る県道で水の流れを止められている。川中を広げて流れを良くしてもらえないか。地下水を利用していますが安全性が気になります。早急に上下水道の整備を懇願しています ◎市の水道が通っていない。共同井戸が老朽化してどうにもならない ◎田んぼの米と麦の藁を燃やして煙がすごく、住む環境ではない。また、家畜の異臭もすごい ◎台風や大雨に限らず、逃げる場所がない ◎買い物や医療機関他に行く場合、車の運転で移動しています。年老いる事が心配になってくる ◎病院が近くにないので困る。買い物もすべて車で移動なので不便 ◎近くにコンビニ、スーパーがほしい ◎飲食店の配達エリアから除外されていることが不便 ◎中地区の医療機関がなくなってしまう ◎中地区に買い物出来るお店が1つも無い。バスが運行されていない、されていても二時間に一本では・・・

(2) 人口減少や、それに伴う担い手の不足

◎少子化、過疎化により地域活動に困難が生じている地域は、PTA、育成会、子ども会、自治会などの多くの役職が大変な負担となっている。可能

であれば古くからの慣習にとらわれずに活動の内容を精査して地域統合も考え活動を存続できるように検討すべきだ ◎子どもの人数が減少している ◎空き家、空き地が増えているのも気になります。荒れてしまうと害獣の棲みかになりそうで心配です ◎子どもが戻らないので空家になります ◎若者がどんどん減ってきて他へ行ってしまふ。若い人たちが働くところもない。新しい住宅もたたない ◎一人暮らしの独身男性が多い。なぜなのか対策をとらないと益々人口が減ってしまいます ◎人口減少に伴う各種の急速な対応が必要です ◎農業従事者ではありませんが、農業の跡継ぎは他地区に行ってしまう田畑は今後どうなるか、心配です ◎現在数名の人達で農地を維持管理しているが、70歳を超えている。数年後には中断することになると思われ、耕作放棄地となる。後継者は全く見えない ◎少子高齢化により、特に自治会の活動が出来なくなりつつあり、今後が不安です ◎地域住民の高齢化により地域の役員が重荷になります ◎限界集落になってきている ◎地域住民の高齢化が止まらない ◎コロナにより地域の集まりや寄合いが少なくなり、地域の祭り事が無くなってしまい地域のコミュニケーションが少なくなった

(3) 移動に関する利便性の低さ

◎おーバスがあっても本数が少なすぎ、老人なので近くにスーパーがあったらうれしい 歩いて行けるところに ◎通学の時間帯に小山駅へ向かうバスがもう少し欲しいです。子どもの進学を考える時に悩みます ◎家の周辺では公共交通機関が皆無で大変不便です。バス路線など、もう少しなんとかならないですか？車がないとなにも出来ず高齢者の免許証返納など、とても無理です ◎交通の便では、隣接市町への連結が少ない ◎車がないとどこにも行けない ◎運転できなくなった時にこの地区に住んでいられる自信がない ◎高齢になっても運転免許を返納できない

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える中地区の小さな自慢は何でしょう？」

設問【4】と同様に選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・	176
2 消防団や自治会など地域の互助活動・・・	128
3 地域の農業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	125
4 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・・・・・・	74
5 公民館で行われる祭りやイベント・・・・・・・・	56
5 まちなみや景観・・・・・・・・・・・・・・・・	56
6 買い物の利便性・・・・・・・・・・・・・・・・	54
7 街路樹や公園、平地林などの自然・・・・・・・・	51
8 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・・・・	47
8 交通の利便性・・・・・・・・・・・・・・・・	47
9 趣味やスポーツの地域のサークル・・・・・・・・	34
10 地域の商業・・・・・・・・・・・・・・・・	19
11 地域の工業・・・・・・・・・・・・・・・・	5

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 歴史的な地域の資源	34.1%
2 地域コミュニティの繋がり	25.0%
3 地域の産業（農業単体で3位）	17.1%
4 利便性が良いこと	11.6%
5 地域の景観	6.4%
6 地域に残る自然環境	5.6%

●その他について

その他を選択した回答が9件。コメント欄に具体的な記載があったものを掲載する。

◎いちごの里

◎観光農園・県南市場

◎そもそも全てにおいて欠けている

◎地域の水道事業

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

30代 5名	40代 17名	50代 66名	60代 128名	70代以上 184名
2名が選択	1 地域の農業	1 歴史的史跡や寺社	1 歴史的史跡や寺社	1 歴史的史跡や寺社
歴史的史跡や寺社	2 歴史的な史跡や寺社	2 歴史的建築や古木	2 地域の農業	2 地域の互助活動
公民館での催事	3 歴史的な建築や古木	3 地域の農業	3 地域の互助活動	3 地域の農業
残っている自然	4 残っている自然	4 まちなみや景観	4 歴史的建築や古木	4 公民館の催事
1名が選択	4 まちなみや景観	5 地域の互助活動	5 まちなみや景観	5 買い物の利便性
歴史的な建築や古木	5 公民館の催事	6 残っている自然	6 祭りや伝統芸能	6 交通の利便性
地域の互助活動	6 祭りや伝統芸能	7 買い物の利便性	7 残っている自然	7 歴史的建築や古木
買い物の利便性	6 地域の互助活動	8 交通の利便性	8 交通の利便性	8 祭りや伝統芸能
まちなみや景観	6 地域のサークル	9 祭りや伝統芸能	9 公民館の催事	9 地域のサークル
地域の農業	6 地域の商業	9 地域のサークル	9 買い物の利便性	10 まちなみや景観
地域の商業		9 地域の商業	10 地域のサークル	11 残っている自然

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

5-2 集計結果より ここから

「大切に守り未来に繋ぎたいもの」をジャンル（領域）に分けて見た割合（前ページ右段の表）から、中地区の人々は、「地域に残る歴史ある寺社を大切に守り、地域の互助活動や人とのつながりや、地域の農業を大切に考えている」という傾向が浮かび上がる。この傾向は、同じ田園部の寒川地区や穂積地区とも共通するものである。

一方で、近接する間々田地区では、地区の歴史的資源に加えて、生活の利便性や、開発は進んだが、まだ地域に残っている自然環境を大切にしたいと考えている人が多い。これは、市街化が進み新しい住民が増えている地区の特徴ともいえる。

そのような差異を踏まえつつ、以下に掲載する自由記述に寄せられたコメントから、中地区で望まれていることを把握していく必要がある。

(1) 歴史ある史跡、寺社、風習、伝統芸能など

◎集落の人口が減ると神社やお寺の存続ができなくなります ◎史跡や神社は別としても、地域にとってお寺は大切である

(2) 地域のコミュニティや互助活動

◎各地区で行う祭りや風習を守り、人のつながりを強く保つ。各地区の結びつきを強くする ◎世帯数も少ないため地域の助け合いは必要だと思う ◎若い人が出て行ってしまうので、色々な活動が出来なくなってしまう ◎若い者の集落に対する関心がない！ ◎祭りや風習は希望者のみが行うもの。強制はいけない！ ◎場所的に静かなところに住んでいるが、地域の人たちとあまり会わない ◎人口減少により、地域の”おすそ分け” ”助け合い”等、地域の支え合いが失われていく ◎スポーツや地域のサークル活動を公民館が中心になって実施する ◎助け合いの活動 ◎「田園都市」のフレーズも外から見ればカッコよく思えるが集落が点在しており、生活者も含めての生活圈（高

齢者対策）を加味した計画をお願いしたい

(3) 地域の農業

◎お米がおいしい ◎県南市場があるので助かっております ◎高齢化と農業中心で他には特にありません

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

1 ゆったりと休養している時	268
2 家族だんらの時	206
2 友人や知人と会合、雑談している時	206
3 趣味やスポーツに熱中している時	180
4 仕事に打ち込んでいる時	146
5 社会奉仕や社会活動をしている時	45
6 勉強や教養などに身を入れている時	31

その他6名、無記入25名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？
豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

1 心も体も健康でいられること	299
2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること	185
3 好きなことをする時間のゆとりがあること	161
4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること	131
5 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること	93
6 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること	72
7 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること	69
8 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること	67
9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること	34
10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること	21
11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと	7
12 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること	6
13 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること	5
13 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと	5
14 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること	1

その他2無記入20

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

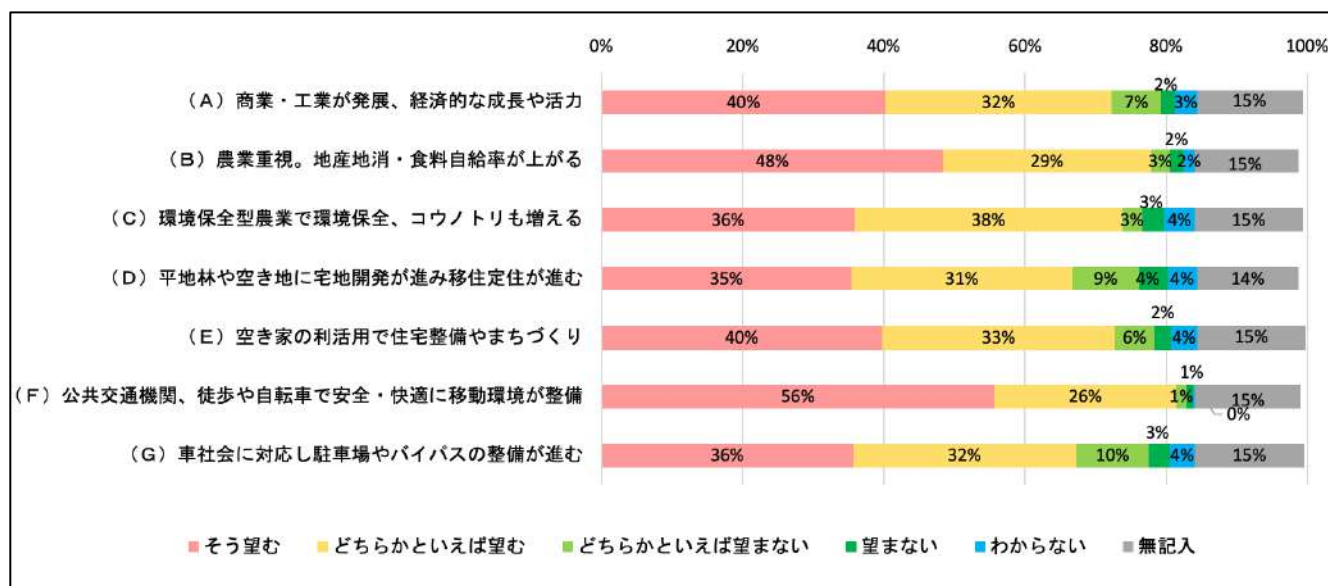
質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

Aからそれぞれについて、選択肢の中からお考え

に合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略 * () 内の数字は「そう望む」の回答者の%

- 82% (56) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 77% (48) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 73% (40) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む
- 72% (40) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 74% (36) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 68% (36) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 66% (35) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」のみの割合が高い順

- (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で・・・
- (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み・・・
- (A)商業・工業が発達し・・・
- (E)空き家の改修や利活用が進み・・・

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果を細かく読み解きながら活用していくものとした。

●結果の概観

他の地区と同様に、上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ結果となっている。

ただ、中地区の場合は、設問【4】【5】の「困りごと」「大切なもの」という「現状」についての自由記述は記入者がそれほど多くなかったのに対し、次に記載するように、本設問の「中地区や小山市の今後」に関する自由記述には、100名を超える方がコメントを寄せてくれている。その内容の背景なども踏まえて、しっかりと住民意識を把握していく必要がある。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

(2)最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。＊例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。＊また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なお提案など、自由にお書きください。

中地区では、112名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

本報告書では、別添の「アンケート集計結果報告書」にテーマごとに掲載した回答者のコメントからビジョンの考え方の根本に関するご意見を抜粋して、紹介する。

7-4 自由記述から一部を掲載

1.中地区の未来について

(1)自然環境の保全

◎とても緑が多く環境の良い土地ですので、さらに発展してくれることを望みます ◎きれいな川、魚や野鳥などが生息し続けてほしい ◎まず巴波川の両端にヨシがはびこっているのも機械で根を掘り出さなければ非常に危険です。私が子どもの頃は猫柳と黄菖蒲が川の両端にあり、蜚が飛んでいました。70年ほど昔でした。年に1回は川の機械清掃を実行してほしいです ◎平地林など緑をなくして住宅地開発はしてほしくない。空き家も

多いので、それを活用し、若い世代の人たちが住みやすい小山市をつくってほしい ◎私の住む中地区では美しい水田が広がり、台風が来ると荒れる巴波川が地区を蛇行しています。今後 20 年後 30 年後は私は生きていないと思いますが、私の子ども、孫が今生活しています。まずは平和で、そこそこの豊かな生活がこの中地区で出来ればと思います ◎とにかく人がいなくなると、思う様な事が出来ないと思います。過疎をなるべくなくす事が今後の目標だと思います

(2)農業の振興について

◎農業が発展するシステムを考慮してもらいたい ◎農業の後継者を JA と協議の上、しっかりと取り組んで欲しい。会社組織も良し ◎営農組合の中心が 70 代です。この先後継者不足で耕作放棄地が増えるのが心配でたまりません。民間企業が農業に参入する前に、JA おやまに JA 法人を立ち上げて農地を守っていただきたい。後継者のいない農家の願いです ◎現在水田を所持しているが、親の代から農業従事者に管理をお願いしている。この先農業従事者の数も減少していき、管理もむずかしくなっていきます。私は農業の経験もなく、農耕機も所持していないので将来農地の耕作放棄等が発生しないか不安です。対策を講じていただけたらありがたい ◎調整区域を見直して、どこへでも家を建てられる地域にしてもらいたい。農業をしたい人が移住しやすいようにしたらどうですか ◎人口の減少、若い人がいない。農家の高齢化で、空き家が増え、農地も手つかずの所が増えて、荒れた感じになってしまうので、農業を会社化して、若い人を社員として雇えばいいと思う。農業をやりたい人は一定数いると思います ◎可能性がある(信じられる)農業や(オーガニック)環境に優しい、そう感じるができることの大切さや農業、除草剤に頼らない新しい未来づくりはテーマであって、次世代への仕事。心をも豊かに育つなにかが必要なのではないでしょうか。忙

しい情報のなかで楽しんで、調和もある程度とれると嬉しいです ◎目標は高い方が望ましいが、実現するにはかなりハードルが高そう。身近な問題として農業の後継者問題は近未来である。一部放棄地を見るに、雑草が繁茂し、この状態が広がっていくことを想像すると心が痛い。法人化、経営等、行政も積極的に関わってほしい ◎行政や農協がもっと本気で、10 年後、20 年後、30 年後の小山市の食料自給率を考え、策を講じていかないと手遅れになる。地域住民の努力に頼っているだけでは、解決にならない

(3)人口減少・高齢化社会への不安

◎中地区等農村地域はこれから人口の減少がますます進むと思う。特に若者の減少が著しくなり、現在の集落が成り立たないことになるかもしれませんね。小山市全域のバランスを望むことは難しいと思いますが、公的なインフラを整備することはもちろん、人との交流の場を増やせる様努力が必要だと思います ◎高齢者の車での事故が増えているので、これからますます増えていく高齢者が運転をしなくても生活が出来るように公共交通機関を少しずつ増やしていただけると嬉しいです。買い物や病院へ行くのに苦労している方のお話を聞くことが多くなってきました。確実に高齢者が増える未来を想定して、まちづくりを進めて頂けたらと思います ◎買い物する場所が中地区にあると良いのですが。中地区は高齢化が今後進むため、公共交通機関(バス)の整備が必要。バスの本数が増えることを望む。(提案)ですが、いちごの里の中に生活に必要な食料品売り場があると他の地区で買い物することがなく、地域の活性化になると思われます ◎近隣は田畑で免許返納後の交通手段がありません。その点についてきちんと考えて頂き具体策を講じてほしいと思います ◎年齢などで免許返納する人が増えると思いますので。交通手段の確保を充実させて頂きたいと思います。田園の中にも病院やスーパーが出来て買

い物に便利になる事を願います ◎小山市西地区（穂積、中、寒川等）には大きなスーパーもなく買い物に不便である。車が乗れなくなった時の食料品等生活必需品の買い物がとても不安である ◎田園地域の住民は駅に行くのも買い物に行くのも病院に行くのも生活するにおいて不便です。公共交通機関が充実することや、食品や日用品が近くで買えるお店を田園地域にも対応出来るように小山市として前向きに動いて欲しいです。高齢者にもやさしい小山市になって欲しいものです ◎今住んでいる所は年寄りが多く若い人があまりいない。この先、今の地域がどうなるのか心配です ◎子ども達に夢や希望を持たせすぎて小山から離れていってしまう。家族も一人暮らしが増えて、昔の様な暮らしがなくなっている。世の中の成り行きで仕方がないのかもしれないが淋しい現代だと思う。中地区は子どもが大変少ない。このままではこれから先、まちとして成り立たない気がする

(4) 空き家の活用

◎今から市の空き家対策に力を入れてもらいたい ◎人口減少が続くなかで、空き家の増加と農家の減少による耕作放棄地の増加による空地の利活用することも重要かと思われます ◎空き家の改修や利用で地域の活性化がはかれれば良い

2.都市部と田園部の格差、都市環境と田園環境の調和

◎美田地区と城南、駅東等、比べようもない位、別世界。子ども達は家を出て、別の所に土地を買い、家を建てる。残った親は車も運転できなくなると、買い物も困難、生活も困難。孤独になり死を待ただけになってしまう。せめて近くに子ども達がいてくれればと思っても、市街化調整区域。早く考えて欲しい ◎・地区にも大きなお店を。小山西地区（中地区）は他地区が発展しているのに比べ置いて行かれているような感じがしている

◎バランスと調和がとれるように、田園環境エリアの公共機関の充実、買い物できる商業施設をどんどん建てる必要がある ◎少子高齢化による人口減少で田園環境を維持できるでしょうか。2100年には明治時代と同じくらいの人口になると予想されています ◎田園環境が守られていくためには、農業を志す人が安定した収入が得られるような仕組みが必要である。国、県、市ともに様々な施策を出しているが、農業をやろうという若者は少なく感じられる。今後人口減少が進む中、食料不足となることが懸念される ◎田園環境地域にも公園を作り住宅も作り、学校も無くすることなくバランスのとれた小山市にしてほしい ◎移住とかをすすめて田園地域の住民を増やしてほしい。おーバスは現在も有るけれど、まだ車が無いと不便。車に頼らなくても、買い物・通院が楽になるようにしてほしい ◎小山駅周辺と田園環境エリアをつなげるには、気軽に行き来できることと環境を考慮すれば「おーバス」の増便と思われます。例え赤字であっても 30 分に 1 便程度としバスのみでなく商業との合計での採算でプラスになれば良いのではないかと思います。かなりの時間と検討が実現に向けて必要と思いますが ◎都市環境と田園環境が明確に解かる整備、維持管理を行ってほしい。また、両エリアを簡単に往来できる交通アクセスの確保が不可欠。若い時は都市部で老いたら田舎で暮らしたい思いを実現するため ◎駅まわりだけではなく美田地区などの農業系の地域も、もっと発展させてほしい ◎地域を大切にす為、自然ある小山市であってほしいです。道の駅「思川」の近辺がもう少し開発されると働く所や人々が増え活気が出てくると思います

7-5 自由記述からの頻出キーワード

【7】の自由記述欄（30年後へのご意見）に寄せられたコメント全件で多用された言葉を、1つの参考として紹介する。

テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出で、基本的には、大きく表示されたものほど、語られた回数が多くなっている。ただし、「一般的な文書でよく使用される単語（思う。考える。私、など）は統計処理の際の重み付けを軽くし、一般的な文書ではあまり出現しないが調査対象の文書だけに多く出現する特徴のある単語は重視する」という処理方式を行っている。

【7】自由記述 7481 字から抽出(※ユーザーローカル AI テキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/> によるキーワード抽出)



参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、中地区の地域調査・研究を行う上で参考となるとと思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藺田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (1)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁
<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形・土壌

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第 13 集』小山市教育研究所、1971 年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治 13-19 年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013 年

https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyau/hozen/jiban_houkoku_25.html

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021 年

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyau/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997 年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

栃木県気候変動適応センター | とちぎの気候変動 今と未来、2022 年

https://zerocarbon.pref.tochigi.lg.jp/wp-content/uploads/2023/02/1-2_%E3%81%A8%E3%81%A1%E3%81%8E%E3%81%AE%E6%B0%97%E5%80%99%E5%A4%89%E5%8B%95%E4%BB%8A%E3%81%A8%E6%9C%AA%E6%9D%A5.pdf

沖 大幹『水の未来 - グローバルリスクと日本』岩波書店、2016 年

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007 年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24 (1)、応用生態工学会、2021 年

風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス：概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015 年

鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年

David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110.
<https://sora.unm.edu/index.php/node/121717>

森田弘「ごあいさつ」「うずまのほたる 第 1 号」2003 年、1 頁 | 小山市 — 中小学校
https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703211655_doc_209_0.pdf

WWF ジャパン

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html>

5 歴史

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html

旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的資産に係る報告書」2017 年

平田輝明「古河藩における蛸御用と農民」『小山市立博物館紀要』小山市立博物館、1994 年

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

7 防災・減災

大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997 年

小山市 | 小山市洪水・土砂ハザードマップ
<https://x.gd/Y6V5F>

栃木県「一級河川利根川水系巴波川圏域河川整備計画（第 3 回変更）」2021 年
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/town/kasen/kaishu/documents/20210408111748.pdf>

8 遺跡

秋元陽光「“栃木沖積低地” 周辺の古墳一伯仲 1 号墳の位置付けをめぐって」『研究紀要 第 31 号』とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023 年

小山市教育委員会「井岡遺跡確認調査」報告書、1980 年

9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004 年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979 年、26-47 頁

高木正敏「近世林野入会の成立——一七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982 年、45-65 頁

吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティヴ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998 年

鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田と Eco-DRR」『農村計画学会誌』37 (4)、2019 年

小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r>

小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて
<https://x.gd/UGZZ0>

高橋朋子・鈴木睦美・福光健二「樹木による悪臭除去手術」『群馬畜試研報』1、群馬県畜産試験場、1994 年

10 民俗

嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991 年

11 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978 年

小山市教育委員会「大川島神社鳥居説明サイン」2000 年

嵐山町 web 博物誌 | 嵐山町誌 | 四、村の地名 | 第 5 節: 特殊な地名 | 信仰に関係あるもの | 免・面
http://www.ranhaku.com/web06/01chishi/10_145.html

12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年

13 中地区郷土誌

小山市教育委員会・文化振興課編「おやま百景ガイドブック」小山市、1994 年、2004 年改訂

中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行「中地区のあゆみ」2013 年

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
中地区

2025 年 3 月

小山市